

神奈川県鳥類誌

2

Natural History of Birds in Kanagawa

No. 2

神奈川県立博物館

Kanagawa Prefectural Museum

Yokohama, Japan

March 1974

次

神奈川県産鳥類目録について	3
神奈川県産鳥類目録	5
アビ目	アビ科 (Family <i>Gaviidae</i>) 5
カイツブリ目	カイツブリ科 (Family <i>Podicipitidae</i>) 5
ミズナギドリ目	アホウドリ科 (Family <i>Diomedidae</i>) 5
	ミズナギドリ科 (Family <i>Procellariidae</i>) 6
	ウミツバメ科 (Family <i>Hydrobatidae</i>) 6
ペリカン目	ネッタイチョウ科 (Family <i>Phaethontidae</i>) 7
	カツオドリ科 (Family <i>Sulidae</i>) 7
	ウ
	科 (Family <i>Phalacrocoracidae</i>) 7
	グンカンドリ科 (Family <i>Fregatidae</i>) 7
コウノトリ目	サギ科 (Family <i>Ardeidae</i>) 7
	コウノトリ科 (Family <i>Ciconiidae</i>) 9
	トキ科 (Family <i>Threskiornithidae</i>) 9
ガンカモ目	ガンカモ科 (Family <i>Anatidae</i>) 9
ワシタカ目	ワシタカ科 (Family <i>Accipitridae</i>) 11
	ハヤブサ科 (Family <i>Falconidae</i>) 13
キジ目	キジ科 (Family <i>Phasianidae</i>) 13
ツル目	ツル科 (Family <i>Gruidae</i>) 13
	クイナ科 (Family <i>Rallidae</i>) 14
チドリ目	タマシギ科 (Family <i>Rostratulidae</i>) 14
	ミヤコドリ科 (Family <i>Haematopodidae</i>) 14
	チドリ科 (Family <i>Charadriidae</i>) 15
	シギ科 (Family <i>Scolopacidae</i>) 16
	セイタカシギ科 (Family <i>Recurvirostridae</i>) 19
	ヒレアシシギ科 (Family <i>Phalaropodidae</i>) 19
	ツバメチドリ科 (Family <i>Glareolidae</i>) 19
	トウゾクカモメ科 (Family <i>Stercorariidae</i>) 19
	カモメ科 (Family <i>Laridae</i>) 20
	ウミスズメ科 (Family <i>Alcidae</i>) 21
ハト目	サケイ科 (Family <i>Pteroclididae</i>) 22
	ハト科 (Family <i>Columbidae</i>) 22
ホトトギス目	ホトトギス科 (Family <i>Cuculidae</i>) 22
フクロウ目	フクロウ科 (Family <i>Strigidae</i>) 23
ヨタカ目	ヨタカ科 (Family <i>Caprimulgidae</i>) 23
アマツバメ目	アマツバメ科 (Family <i>Apodidae</i>) 24
ブッポウソウ目	カワセミ科 (Family <i>Alcedinidae</i>) 24
	ブッポウソウ科 (Family <i>Coraciidae</i>) 24

キツツキ目
スズメ目

ヤツガシラ科 (Family <i>Upupidae</i>)	24
キツツキ科 (Family <i>Picidae</i>)	24
ヒバリ科 (Family <i>Alaudidae</i>)	25
ツバメ科 (Family <i>Hirundinidae</i>)	25
セキレイ科 (Family <i>Motacillidae</i>)	26
サンショウクイ科 (Family <i>Campephagidae</i>)	26
ヒヨドリ科 (Family <i>Pycnonotidae</i>)	26
モズ科 (Family <i>Laniidae</i>)	26
レンジャク科 (Family <i>Bombycillidae</i>)	27
カワガラス科 (Family <i>Cinclidae</i>)	27
ミソサザイ科 (Family <i>Troglodytidae</i>)	27
イワヒバリ科 (Family <i>Prunellidae</i>)	27
ヒタキ科 (Family <i>Muscicapidae</i>)	27
シジュウカラ科 (Family <i>Paridae</i>)	30
ゴジュウカラ科 (Family <i>Sittidae</i>)	31
キバシリ科 (Family <i>Certhiidae</i>)	31
メジロ科 (Family <i>Zosteropidae</i>)	31
ホオジロ科 (Family <i>Emberizidae</i>)	31
アトリ科 (Family <i>Fringillidae</i>)	32
カエデチヨウ科 (Family <i>Estrildidae</i>)	33
ハタオリドリ科 (Family <i>Ploceidae</i>)	33
ムクドリ科 (Family <i>Sturnidae</i>)	33
カラス科 (Family <i>Corvidae</i>)	34

神奈川県産鳥類目録について

中 村 一 恵

日本鳥学会は、昭和46年6月、学会誌「鳥」89号に日本鳥類目録第5版編集中間報告として新しい日本産鳥類の目録を掲載し、従来の目録を大幅に変更して同目録第5版に収録する日本産鳥類68科478種を単位として和名、学名及びこれらの配列順序を発表した。更に日本野鳥の会では、学名配列上の位置及び和名の変更など同学会が若干の手直しをしたものを、同会発刊の機関紙「野鳥」304号に掲載した。現在のところ日本鳥類目録第5版にこの形で採用される予定である。これにより従来の総称名と標準和名の混同は一部避けられたが、何故か「カモメ」のように従来の和名が生きており、なお問題は残っている。

神奈川県産鳥類目録においても、分類、配列など以上の諸点に原則的に準じている。唯昭和46年に日本で初めて相模湾で記録されたハシグロクロハラアジサシのように目録にない種類も含めた。昭和46年以降現在まで、数種の鳥が新たに記録されている。

したがって亜種単位で従来本県から記録されているオオカワラヒワ、カラアオジ、シクトウメジロ、オオムシクイ、オオアカハラ、ホオジロハクセキレイその他は目録から消える。なお、記載中 Rは留鳥、Sは夏鳥、Wは冬鳥、Trは旅鳥、Stは迷鳥を意味しているが、あくまでも本県を中心に考えた場合であり、例えば迷鳥の取扱いでもその明確な規準はなにもなく判断に迷うことが多い。しかも本県産の鳥類生息状況が全て解明されているわけでは決してなく、渡り区分の取扱いについては、推定の面も多く将来にわたって大幅に修正されるであろう。同時にこのことは種の目録採用に当り筆者自身の判断で選択がなされている点にも当てはまることである。

この目録は、最近のものとしては、杉崎一雄（1958 酒匂川河口のシギ、チドリ類）、柴田敏隆（1964 丹沢山塊）、同（1965 三浦半島）、田代道弥（1969 県西部）、中村一恵（1971 相模湾）、高山一彦（未公表、県全般）らによる目録を参考に、諸氏の記録を集積したもので、種別に分布生態の簡単な解説を加えたものである。

この中にはかつて古く横浜から記録されたが、現在ではほとんど渡来していないトキ、コウノトリ、ヘラサギ、クロトキ、ナベヅル、ガン類なども含めた。かつてはこれらの大型の水鳥が生息可能であった時代があり、これらの鳥が姿を消して久しい事実は重要であり、鳥相の変化にみる時代の流れを知る一つのバロメーターとなろう。

近年、三浦半島からミサゴが姿を消し、カワセミが平野部から大きく後退した一方、ロシアカツバメが北上し、オナガが分布拡大をした。更に外国産のヒメアマツバメも定着した。また、イワシ生簀に寄食するオオミズナギドリの接岸も著しく、生簀のイワシを求めて越冬コサギが海岸に進出した。鳥の生活そのものは決して固定的ではない。時の流れと

ともに我々の気づかぬうちに鳥の生活そのものも変化する。

この目録が必ずしもそのような点に特別留意して書かれたものではないが、これを機会に将来目録そのものも改めるべき点は改め、更に完璧な郷土の鳥の姿がクローブアップされれば幸いである。

常日頃、暖いご指導を賜わり、この目録に関してもご校閲賜わった農林省林業試験場三島冬嗣技官に深甚の謝意を表する。

日本野鳥の会横浜支部幹事高山一彦氏並びに平塚市博物館準備事務室浜口哲一氏は、それぞれ未公表の県下全般にわたる鳥類目録および観察データの参照を許された。また野毛山動物園堀浩、大阪豊岡獣医は各地からの鳥類記録を提供され、日本野鳥の会会員矢田孝氏は本目録に使用した生態写真をご提供いただいた。上記の方々にもあわせ心よりお礼申しあげる。

神奈川県産鳥類目録

アビ目 (GAVIIFORMES)

1. アビ科 (GAVIIDÆ)

アビ属 (*Gavia*)

1. アビ *Gavia stellata*

全北区の北緯83度と47度の範囲に繁殖。冬鳥として全国（北海道では旅鳥）の沿岸に渡来する。県下では相模湾沿岸に観察されるが、オオハム、シロエリオオハムに比べて少ない。(W)

2. オオハム *Gavia arctica*

旧北区北部と新北区の一部の北緯74度と50度の範囲に繁殖。冬鳥として全国（北海道では旅鳥）の沿岸に渡来する。日本海側に比較的多く越冬するがシロエリオオハムより少ない。県下各地の海岸で観察されるが、相模湾沿岸に比較的多い。(W)

3. シロエリオオハム *Gavia pacifica*

アラスカ、カナダ北部に繁殖。冬鳥として全国（北海道では旅鳥）の沿岸に渡来するが太平洋側では、オオハムより本種の方が多いとされる。(W)

4. ハシジロアビ *Gavia adamsii*

全北区北部の北緯76度と63度の範囲に繁殖。わが国へは冬鳥として渡来するが多くは北日本にみられる。県下では相模湾からの記録が1例あるのみでまれである。(St)

カイツブリ目 (PODICIPEDIFORMES)

2. カイツブリ科 (PODICIPITIDÆ)

カイツブリ属 (*Podiceps*)

5. カイツブリ *Podiceps ruficollis*

旧北区、エチオピア区、東洋区の北緯59度と南緯35度の広い範囲に繁殖。わが国ではほぼ全国の湖沼、池沼に生息し繁殖する。県下各地で観察される。(R)

6. ハジロカイツブリ *Podiceps nigricollis*

全北区とエチオピア区の北緯62度と南緯35度の広い範囲に繁殖わが国へは冬鳥（北海道

では旅鳥）として渡来し、海岸、河口に小群で越冬する。小田和湾で1羽(1970・²⁴/_Ⅲ)、葉山沖で1羽(1971・⁵/_Ⅲ)を観察した。(W)

7. ミミカイツブリ *Podiceps auritus*

全北区の北緯69度と45度の範囲に繁殖。わが国には、冬鳥として沿岸に渡来するが北日本に多く、南日本では少ない。江の鳥(1923・²³/_Ⅳ：橘川次郎氏)の記録がある。(W)

8. アカエリカイツブリ

Podiceps griseigena

(pl. 1. fig. 1)

全北区の北緯69度と40度の範囲に繁殖。北海道では繁殖するものもあるが、本州以南では冬鳥として渡来する。県下では主に相模湾沿岸一帯で観察されるが、芦ノ湖など山地の湖沼にも少数が渡来する。鎌倉腰越沖1羽(1968・²⁵/_Ⅲ)、葉山真名瀬1羽(1968・¹¹/_Ⅳ)、三浦半島黒崎の鼻1羽(1969・²⁴/_Ⅲ)など。(W)

9. カンムリカイツブリ *Podiceps cristatus*

旧北区、東洋区、エチオピア区、オセアニア区の北緯66度と南緯46度の広い範囲に繁殖。多くは冬鳥として全国の海岸湖沼に渡来するが南日本には少ない。近年青森県で繁殖が確認された(野鳥 316号)。三浦半島荒崎沖4羽(1971・¹⁰/_Ⅰ)。(W)

ミズナギドリ目

(PROCELLARIIFORMES)

3. アホウドリ科 (DIOMEDEIDÆ)

アホウドリ属 (*Diomedea*)

10. アホウドリ *Diomedea albatrus*

伊豆諸島の鳥島、尖閣列島にのみ繁殖し、数はごく少ない。本州沿岸ではまれで、相模湾から1例があるのみ。(St)

11. コアホウドリ *Diomedea immutabilis*

ミッドウェー島、レイサン島、カリフォルニア半島沖合の島などに繁殖。北太平洋に広く分布するが、非繁殖期には通常北緯35度～

40度より北に留まる。鳥島で繁殖していたことがある。(St)

12. クロアシアホウドリ
Diomedea nigripes

北太平洋に広く分布し、ハワイ諸島、マーシャル諸島に繁殖。わが国では伊豆諸島の鳥島で少数が繁殖するが、本州沿岸ではまれである。相模湾(京都大学 Coll.)、大岬付近(1921・25/1)の記録がある。(St)

4. ミズナギドリ科 (PROCELLARIIDÆ)
シロハラミズナギドリ属 (*Pterodroma*)

13. シロハラミズナギドリ
Pterodroma hypoleuca

熱帯太平洋に繁殖。わが国では、小笠原諸島などに繁殖するが、本州沿岸では多くは大型台風の通過後に記録される。茅ヶ崎(1903・K)、鎌倉由比ヶ浜(1940・21/Ⅲ)のほか最近では横浜市港北区(1972・18/K)と港南区(16/K)で各1羽が台風通過後に捕獲された(中村 1973)。(St)

オオミズナギドリ属 (*Calonectris*)

14. オオミズナギドリ
Calonectris leucomelas

日本、中国、朝鮮の沿岸離島に繁殖し、冬季南日本、東シナ海で越冬する。相模湾で最も普通のミズナギドリでその数も極めて多い。(S)

ミズナギドリ属 (*Puffinus*)

15. オナガミズナギドリ *Puffinus pacificus*

熱帯太平洋の諸島に繁殖。わが国では、小笠原諸島で繁殖しているが、本州近海ではごくまれである。相模湾(1羽雄、Ⅲ; 京都大学 Coll.)。(St)

16. アカアシミズナギドリ
Puffinus carneipes

ニュージーランドとオーストラリア近海の離島に繁殖し、春から夏にかけて西太平洋の熱帯海域を経由し、日本近海沿いに北部北太平洋まで渡る。江の島東方沖(2羽、1921・2/Ⅴ)。(Tr)

17. ハイイロミズナギドリ

Puffinus griseus

南緯40度と55度の範囲にある諸島に繁殖。わが国では、春から初夏にかけて日本近海を北上する旅鳥である。(Tr)

18. ハシボソミズナギドリ
Puffinus tenuirostris

オーストラリア南東沿岸と付近の離島に繁殖し、北半球に渡り越夏する。日本近海へは春から初夏にかけて出現する旅鳥で、海岸近くでも観察されるが沖合いに多い。(Tr)

19. コミズナギドリ *Puffinus nativitatis*
熱帯太平洋に繁殖し、周年繁殖地付近に留まるらしい。わが国では小笠原諸島で繁殖するものもあるが、本州近海ではごくまれである。相模湾(2羽)。(St)

5. ウミツバメ科 (HYDROBATIDÆ)
ウミツバメ属 (*Oceanodroma*)

20. ハイイロウミツバメ
Oceanodroma furcata

千島列島、アリューシャン列島、北アメリカ沿岸に繁殖する北方種。日本近海にはまれに渡来する。三浦三崎1羽(1906・Ⅲ)。(St)

21. ヒメクロウミツバメ
Oceanodroma monorhis

北太平洋に繁殖。わが国では岩手県三貫島・福岡県沖の島で繁殖する暖海種で、太平洋沿岸でみられる。(St)

22. クロコシジロウミツバメ
Oceanodroma castro

ハワイ諸島、ガラパゴス諸島など北緯40度と南緯16度の範囲に繁殖。わが国では本州北部の離島に繁殖し、中部以北の太平洋岸にも飛来する。横須賀港内(1629・14/X)。(St)

23. オーストンウミツバメ
Oceanodroma tristrami

北太平洋中部の諸島に繁殖。わが国では、伊豆七島、小笠原諸島の一部に繁殖し、本州近海にも飛来する。(S)

24. クロウミツバメ
Oceanodroma matsudairae

硫黄列島の特産種で、北硫黄島、南硫黄島でのみ繁殖する。春季、アジア沿岸、インド洋に北上し、本州近海では相模湾(1921)と宮城県下(1956)の記録がある。(St)

ペリカン目 (PELECANIFORMES)

6. ネットイチョウ科

(PHAETHNOTIDÆ)

ネットイチョウ属 (*Phaethon*)

25. アカオネットイチョウ

Phaethon rubricauda

熱帯太平洋に広く分布し繁殖する。わが国へはまれな迷鳥として出現し、多くは大型台風に運ばれ内陸に迷行した記録である。県下では、1972年9月19日、台風20号により江の島付近に迷行した幼鳥1例(中村 1973)があるのみ。(St)

7. カツオドリ科 (SULIDÆ)

カツオドリ属 (*Sula*)

26. カツオドリ *Sula leucogaster*

熱帯太平洋に繁殖。わが国では鹿児島県草垣島、伊豆列島スミス島、小笠原及び大山列島、琉球諸島で繁殖する。県下では1970年3月15日、強い温帯低気圧の通過直後、横浜港ノースピア付近で保護された1羽の記録があるのみ。(St)

8. ウ科 (PHALACROCORACIDÆ)

ウ属 (*Phalacrocorax*)

27. カワウ *Phalacrocorax carbo*

南アメリカを除くほとんど全世界に分布するコスモポリタンで、北緯72度と南緯47度の広い範囲に繁殖。全国の内陸や海岸近くの林に集団で繁殖する。県下に繁殖地はなく、現在のところ、松平頼孝氏(1915)による藤沢市片瀬川河口の記録のみと思われる。(W)

28. ウミウ *Phalacrocorax capillatus*

シベリア東部、朝鮮に繁殖。わが国では本州北部以北に繁殖し、冬季、全国の沿岸で越冬する。県下各地の海岸に普通にみられる。(W)

29. ヒメウ *Phalacrocorax pelagicus*

北部北太平洋に繁殖。わが国では本州北部以北に繁殖し、冬季全国の沿岸に越冬する。相模湾沿岸で普通に観察される。(W)

9. グンカンドリ科 (FREGATIDÆ)

グンカンドリ属 (*Fregata*)

30. コグンカンドリ *Faegata ariel*

熱帯太平洋諸島に繁殖。わが国では多くは大型台風の通過後、海岸あるいは内陸で観察されたり記録されるがまれである。太平洋岸に記録が多い。近年では、東京湾で1羽(1972・²⁴/K)が観察され、翌25日には本種と思われる2羽が鎌倉市由比ヶ浜海岸に飛来した(中村・林 1973)。(St)

コウノトリ目 (CICONIIFORMES)

10. サギ科 (ARDEIDÆ)

サンカノゴイ属 (*Botaurus*)

31. サンカノゴイ *Botaurus stellaris*

旧北区、エチオピア区の北緯61度と34度の範囲に繁殖。わが国では北海道で繁殖するものもあるが、本州では冬鳥で数は少ない。県下からは横浜(1883・II)からの古い記録の他、靱山徳太郎氏(1917)の目録にある。(W)

ヨシゴイ属 (*Ixobrychus*)

32. ヨシゴイ *Ixobrychus sinensis*

東旧北区の一部と東洋区に繁殖。わが国へは、夏鳥として渡来し、各地の水田、湿地、池沼畔など水辺に生息し繁殖する。酒匂川河口(1968・³/W)、鎌倉深沢(1968・¹⁶/V)。(S)

33. オオヨシゴイ *Ixobrychus eurhythmus*

アジア東南部に繁殖し、東南アジアで越冬する。わが国には本州以北に夏鳥として渡来するがヨシゴイより少ない。横須賀(1950・IX: 柴田敏隆氏)、箱根強羅一大湧谷(1958・⁸/X: 田代道弥氏)の記録がある。(S)

ミゾゴイ属 (*Gorsakius*)

34. ミゾゴイ *Gorsakius gaisagi*

日本特産種。平地から低山帯の深い森林に繁殖し、冬季台湾、中国南部、フィリピンな

どに渡るが温暖な地方では越冬するものもある。県下各地で観察されるが多くはない。(S)

ゴイサギ属 (*Nycticorax*)

35. ゴイサギ *Nycticorax nycticorax*

オセアニア区を除くほとんど全世界の北緯50度と南緯50度の広い範囲に繁殖。わが国では本州以南に多くは留鳥として生息するが、一部漂鳥である。県下各地に集団で繁殖し、三浦半島小田和湾では夕刻生簀に飛来し、カタクチイワシを食べている。(R)

ササゴイ属 (*Butorides*)

36. ササゴイ *Butorides striatus*

(pl. 1. fig. 2)

旧北区東南部、エチオピア区、新熱帯区、オセアニア区の広い範囲に繁殖。わが国へは本州以南に夏鳥として河川、沼沢地などに渡来し繁殖する。茅ヶ崎(1954・²⁸/_N)、酒匂川河口5羽(1968・¹¹/_K)、川崎市登戸多摩川1羽(1973・⁸/_N)など。(S)

アマサギ属 (*Ardeola*)

37. アマサギ *Ardeola ibis*

(pl. 1. fig. 3)

原産は旧北区南部、東洋区、エチオピア区であるが、近年オーストラリア、アメリカに分布が拡大した。北緯40度と南緯35度の広い範囲に繁殖する。わが国へは夏鳥として水田、湿地などに渡来するが、海岸へは出ない。わが国でも近年生息地が北へ広がる傾向にある。南日本では少数が越冬する。厚木市郊外4羽(1969・¹¹/_N)、同数羽(1973・²⁴/_N)。(S)

シラサギ属 (*Egretta*)

38. ダイサギ *Egretta alba*

ほとんど全世界の北緯50度と南緯44度の広い範囲に繁殖。わが国には本州以南に夏鳥として渡来し集団で営巣するが、温暖な地方では越冬するものもある。冬鳥として渡来するオオダイサギ(*E. a. alba*)の古い記録(横浜)があるが、県下で観察されるものは、大部分はチュウダイサギ(*E. a. modesta*)である。(W)

39. チュウサギ *Egretta intermedia*

(pl. 2. fig. 1)

旧北区の一部、東洋区、エチオピア区、オセアニア区に繁殖。わが国へは夏鳥として渡来し、本州以南の平地の竹林や雑木林に他のサギ類に混ざり、コロニーをつくって繁殖する。鎌倉市深沢3羽(1968・²⁵/_N)、三浦半島笠島数羽(1973・²¹/_K 海岸進出)など。(S)

40. コサギ *Egretta garzetta*

(pl. 2. fig. 2)

旧北区南部、東洋区、オセアニア区とエチオピアの一部の北緯50度と南緯35度の広い範囲に繁殖。わが国では本州中部以南の林に集団で繁殖する。県下では最も普通のシラサギで相当数越冬する。県下各地の水田、湖沼、河川、干潟などに普通で近年海岸進出が著しく、生簀のカタクチイワシを食べる。三浦半島小田和湾では1970年には20羽未満であったが、1973年には50羽(¹⁸/_K) 200羽、(²/_X)、300羽(⁵/_X)と徐々に数を増した。(R)

41. クロサギ *Egretta sacra*

(pl. 2. fig. 3)

南アジア沿岸、太平洋諸島、オーストラリア、ニュージーランドに分布。わが国では暖流沿岸にみられ、太平洋側では房総半島まで日本海側では山形県まで北上している。岩礁海岸に生息し、内陸に入ることはない。厳冬期には群れをつくる。例えば、笠島17羽(1968・³¹/_N) 県下では城ヶ島、真鶴半島で繁殖する。(R)

アオサギ属 (*Ardea*)

42. アオサギ *Ardea cinerea*

旧北区、東洋区、エチオピア区の北緯64度と南緯35度の広い範囲に繁殖。わが国では、北海道と四国以北の本州に繁殖する。県下へは非繁殖期に出現するが少ない。毘沙門(1964・²⁸/_X:野鳥の会横浜支・報 No. 53)、荒崎(1968・¹⁴/_N)、小田和湾(1970・¹⁹/_N)、相模川河口(1972・²³/_K:野鳥の会横浜支・報 No. 97)など。(W)

43. ムラサキサギ *Ardea purpurea*

旧北区、東洋区、エチオピア区の北緯35度

と南緯35度の範囲に繁殖。わが国では、沖縄諸島南部の湿地でよくみられるが、それ以外ではまれな冬鳥か迷鳥である。県下からは横浜市小机(1918・X)の古い記録のみ。(St)

11. コウノトリ科 (CICONIIDÆ)

コウノトリ属 (*Ciconia*)

44. コウノトリ *Ciconia ciconia*

旧北区の北緯60度と30度の範囲と南アフリカに少数が繁殖。わが国では古くから生息していた個体群は減び、現在ではまれに少数が大陸から冬鳥として渡来するのみ。横浜からの古い記録があるのみである。(St)

12. トキ科 (THRESKIORNITHIDÆ)

ヘラサギ属 (*Platalea*)

45. ヘラサギ *Platalea leucorodia*

旧北区、東洋区、エチオピア区の北緯53度と10度の範囲に繁殖。現在わが国では鹿児島荒崎が唯一の定期的渡来地で、その他の地方ではごくまれな冬鳥である。横浜からの古い記録(1880・XI)があるのみ。(St)

トキ属 (*Nipponia*)

46. トキ *Nipponia nippon*

かつて東旧北区東部に分布していたが現在の状態は不明。わが国ではかつて日本各地に分布していたが、現在では佐渡ヶ島に少数が生存する。県下からは横浜からの古い記録があるのみ。(St)

クロトキ属 (*Threskiornis*)

47. クロトキ *Threskiornis melanocephala*

インド、東南アジアに繁殖。江戸時代には埼玉県野田鷺山で繁殖していた記録もあるが現在では冬鳥として幼鳥がまれに渡来する。県下では横浜からの古い記録があるのみ。(St)

ガンカモ目 (ANSERIFORMES)

13. ガンカモ科 (ANATIDÆ)

コクガン属 (*Branta*)

48. シジュウカラガン *Branta canadensis*

新北区北部(以前は旧北区北東部にも)の

北緯70度と37度の範囲に繁殖。現在わが国ではごくまれな冬鳥として渡来する。横浜から古い記録(*B. b. minima*)があるのみ。(St)

マガン属 (*Anser*)

49. マガン *Anser albifrons*

全北区北部の北緯76度と64度の範囲に繁殖。わが国には北海道から九州までの水田、湖沼、海岸などに冬鳥として渡来するが、近年非常に数が減っている。県下からは靱山徳太郎氏(1917)の目録にあるのみ。(St)

50. カリガネ *Anser erythropus*

旧北区北部の北緯74度と65度の極北部に繁殖。わが国にはまれな冬鳥として渡来する。横浜(1876・I)の古い記録があるのみ。(St)

51. ヒシクイ *Anser fabalis*

旧北区北部の北緯80度と49度の範囲に繁殖。わが国では北海道から九州までの広い水田、湖沼、河川に冬鳥として渡来する。県下からは、田代道弥氏(1969)の目録による箱根からの記録があるのみ。(St)

52. ハクガン *Anser caerulescens*

新北区北部と、旧北区の一部、北緯76度と66度の範囲に繁殖。現在わが国では、まれに冬鳥として渡来する。横浜(1882・III)からの古い記録があるのみ。(St)

53. サカツラガン *Anser cygnoid*

旧北区東北部で繁殖。かつてわが国へは定期的に渡来したが、現在では冬鳥としてまれにマガンなどの群れの中にみられるのみ。県下では横浜からの古い記録があるのみ。(St)

ハクチョウ属 (*Cygnus*)

54. コハクチョウ *Cygnus columbianus*

旧北区北部、北緯74度と61度の範囲に繁殖。わが国には冬鳥として渡来するが地方によってはオオハクチョウ *C. cygnus* より渡来数は多い。県下では1971年12月5日、海老名市河原口付近の相模川で、強い温帯低気圧の通過直後疲労して保護された幼鳥1例があるのみである。(St)

ツクシガモ属 (*Tadorna*)

55. アカツクシガモ *Tadorna ferruginea*

旧北区南部の北緯 53 度と 25 度の範囲に繁殖。わが国へは本州、九州などに冬鳥として渡来するが少ない。県下からは相模川厚木雌 1 羽 (1969・⁵/_V : 高野伸二 1969) の 1 例のみ。(St)

56. ツクシガモ *Tadorna tadorna*

旧北区南部と西部の北緯 59 度と 27 度の範囲に繁殖。わが国には冬鳥として有明海沿岸や九州には定期的に渡来するが、その他の地方ではまれである。県下では横浜からの古い記録があるのみ。(St)

オシドリ属 (*Aix*)

57. オシドリ *Aix galericulata*

アジア極東部に繁殖。わが国では全国の山地の水辺にある樹洞で繁殖する。その他北方から冬鳥として渡来するものもあり、山地の湖沼、溪流に多く、海岸でみることはまれである。県下では箱根芦ノ湖に多い。(W)

マガモ属 (*Anas*)

58. マガモ *Anas platyrhynchos*

全北区の北緯 70 度と 20 度の範囲に繁殖。わが国では北海道と本州中部以北の亜高山帯の湖沼で繁殖するが、多くは冬鳥として渡来する。県下では冬鳥で、芦ノ湖、相模湖など、淡水の湖沼に飛来する他、河口、海上でも普通に観察される。(W)

59. カルガモ *Anas poecilorhynchos*

シベリア南部、中国、東南アジア、インドなどに繁殖。全国の湖沼、水田、河川などの湿地に繁殖する。県下各地に留鳥として普通に生息する他、冬季、相模湾沿岸一帯の海上でも観察される。(R)

60. コガモ *Anas crecca*

(pl. 3. fig. 1)

全北区の北緯 73 度と 37 度の範囲に繁殖。わが国では本州北部の高地で少数が繁殖するが、全国の湖沼、河川、海岸などに多くは冬鳥として普通に渡来する。横浜市磯子約 80 羽 (1969・¹³/_{II})、横浜市三溪園雌雄各 3 羽 (1970・²/_I)、横浜市磯子約 200 羽 (1971・¹⁶/_I) など。(W)

61. トモエガモ *Anas formosa*

シベリア東北部に繁殖。わが国へは冬鳥として渡来するが、本州中部以西および北九州に多い。県下ではまれな冬鳥で相模原貯水池で雄 1 羽 (1974・³¹/_I : 秋月祐司氏観察) の記録があるのみと思われる。(W)

62. ヨシガモ *Anas falcata*

シベリア東南部、モンゴルなどに繁殖。わが国では北海道に少数が繁殖するが、多くは冬鳥として渡来する。東京湾に多く (清棲幸保氏 1965)、走水沖で雄 1 羽 (1970・²⁸/_{II}) を観察した。(W)

63. オカヨシガモ *Anas strepera*

全北区の北緯 66 度と 30 度の範囲に繁殖。わが国では、北海道に少数が繁殖しているが、多くは冬鳥として渡来し、数は多くはない。酒匂川河口沖雌 1 羽 (1960・²⁸/_{II} : 杉崎一雄氏 1968) の観察記録がある。(W)

64. ヒドリガモ *Anas penelope*

旧北区北部の北緯 73 度と 48 度の範囲に繁殖。わが国には冬鳥として渡来し、海岸、湖沼、河川などに普通。杉崎一雄氏 (1968) による酒匂川河口雌 1 羽 (1956・¹⁹/_{IV})、同雌 1 羽 (1959・⁵/_{IV}) の記録の他、相模原貯水池 1 羽 (1971・²⁸/_{II} : 野鳥の会横浜支・報 No. 90) でも観察されている。(W)

65. オナガガモ *Anas acuta*

全北区の北緯 73 度と 35 度の範囲に繁殖。わが国へは全国の海岸、湖沼、河川などに冬鳥として普通に渡来する。県下各地で観察される。(W)

66. シマアジ *Anas querquedula*

旧北区の北緯 64 度と 35 度の範囲に繁殖。わが国には全国の湖沼、河川、海岸などに春と秋に姿をみせる主に旅鳥であるが、多くはない。酒匂川河口沖雄 1 羽 (1958・¹⁰/_{IV} : 杉崎一雄氏 1968)、相模原貯水池 (1970・IV : 麻布獣医大野鳥研観察)。(Tr)

67. ハシビロガモ *Anas clypeata*

全北区の北緯 73 度と 35 度の範囲に繁殖。わが国には冬鳥として渡来する。海上でもみ

られるが淡水を好む。走水沖で数羽(1970・^{19/III})を観察した。(W)

ハジロ属 (*Aythya*)

68. ホシハジロ *Aythya ferina*

旧北区の主に北緯60度と45度の範囲に繁殖。sporadicな繁殖は更に南で行なわれることがある。わが国には冬鳥として渡来し、淡水の湖沼を好み海上に出ることは少ない。箱根芦ノ湖で雌1羽(1973・II)が記録された。(W)

69. アカハジロ *Aythya baeri*

東旧北東部の狭い範囲に繁殖。わが国には冬鳥として北海道、本州に渡来するが少ない。県下では、横浜からの古い記録があるのみ。(St)

70. キンクロハジロ *Aythya fuligula*

旧北区の北緯70度と45度の範囲に繁殖。わが国では北海道で繁殖するものがあるが、多くは本州以南に冬鳥である。県下では、箱根仙石原、芦ノ湖、相模原貯水池、三浦半島小松ヶ池など、淡水の湖沼に渡来する。(W)

71. スズガモ *Aythya marila*

(pl. 3. fig. 2)

全北区北部の北緯74度と50度の範囲に繁殖。全国に冬鳥として渡来する。特に東京湾に多く、相模湾では河口、湾内で観察される。酒匂川河口雌幼鳥1羽(1971・^{7/IV})、小田和湾雌2羽(1971・^{24/IV})。(W)

クロガモ属 (*Melanitta*)

72. クロガモ *Melanitta nigra*

旧北区北部と新北区北西部の北緯75度と50度の範囲に繁殖。わが国へは全国の海岸に、冬鳥として多数渡来する。真鶴海岸雄1羽、雌1羽(1970・^{6/III})、走水沖5羽(1970・^{19/III})、三浦半島小田和湾雄1羽、雌13羽(1971・^{24/IV})など。(W)

73. ビロウドキンクロ *Melanitta fusca*

全北区北部の北緯71度と48度の範囲に繁殖。わが国には冬鳥として全国各地の海岸に渡来するがあまり接岸しない。県下では大楠海岸、城ヶ島、三浦海岸など相模湾側三浦半

島一帯、磯子区杉田沖などの東京湾で観察される。(W)

シノリガモ属 (*Histrionicus*)

74. シノリガモ *Histrionicus histrionicus*

全北区の北緯70度と40度の範囲に繁殖。わが国には冬鳥として渡来し、北日本に多い。波の荒い磯に好んで住む。

杉崎一雄氏(1968)による酒匂川河口3羽(1958・XI~XII)、同2羽(1962・II)の記録の他、江の島(1914・^{20/X}、1921・^{19/I})、葉山(1962・^{18/I})、横須賀久里浜(1963・I)及び三浦海岸雄4羽、雌4羽(1969・^{1/II})：野鳥の会横浜支・報 No. 78)などがある。(W)

ホオジロガモ属 (*Bucephala*)

75. ホオジロガモ *Bucephala clangula*

全北区の北緯70度と45度の範囲に繁殖。わが国へは全国の湖沼、河口、海岸などに冬鳥として普通に渡来する。県下では各地の海岸で観察されるが比較的少ない。(W)

アイサ属 (*Mergus*)

76. ウミアイサ *Mergus serrator*

(pl. 3. fig. 3)

全北区北部の北緯75度と45度の範囲に繁殖。わが国には冬鳥として渡来する。主に海上を好む。天神島雄1羽(1969・^{29/IV})、小田和湾雌1羽(1971・^{24/IV})、荒崎沖2羽(1972・^{29/III})など。(W)

77. カワアイサ *Mergus merganser*

全北区の北緯71度と30度の範囲に繁殖。わが国では、北海道で少数が繁殖する。多くは冬鳥として主に内陸の河川、湖沼に渡来するが多くはない。県下では、東京湾、相模湾相模川河口からの採集記録がある。(W)

ワシタカ目 (FALCONIFORMES)

14. ワシタカ科 (ACCIPITRIDÆ)

ミサゴ属 (*Pandion*)

78. ミサゴ *Pandion haliaetus*

南アメリカを除くほぼ全世界の北緯69度と南緯44度の広い範囲に繁殖。わが国には全国に分布し繁殖するが、近年著しく減少した。江

の島～片瀬で1羽(1949・²⁰/_K：三島冬嗣氏)を観察している。1960年頃は三浦半島の剣崎、毘沙門、上宮田一帯で冬季観察され、酒匂川河口でも1956～62年にかけて記録されていた(杉崎一雄氏 1968)が、近年はほとんど姿を消した。最近では三浦半島黒崎の鼻で1羽(1970・¹¹/_I：野鳥の会横浜支・報 No. 83)、東京湾沖ノ島で2羽(1972・⁸/_X)が観察された。(W)

ハチクマ属 (*Pernis*)

79. ハチクマ *Pernis apivorus*

旧北区と東洋区に繁殖。わが国には、本州中部以北に夏鳥として渡来し、森林に繁殖する。渡りのときは、大群で本州沿いに南下する。県下では少なく丹沢長尾々根で1羽(1967・²⁵/_{VI}：野鳥の会横浜支・報 No. 69)の観察記録があるのみ。(S)

トビ属 (*Milvus*)

80. トビ *Milvus migrans*

旧北区、東洋区、エチオピア区、オセアニア区の北緯64度と南緯34度の広い範囲に繁殖。全国各地に周年生息し繁殖する。県下にも最も普通のワシタカ類で、海岸から山地まで広く分布する。(R)

オジロワシ属 (*Haliaeetus*)

81. オジロワシ *Haliaeetus albicilla*

旧北区と新北区の一部、北緯75度と34度の範囲に繁殖。わが国では北海道に繁殖するものもあるが、多くは冬鳥として渡来し本州以南にも渡る。県下からは靱山徳太郎氏(1917)の古い記録がある。(St)

82. オオワシ *Haliaeetus pelagicus*

分布域は狭く、旧北区東北部沿海地方の一部に繁殖。わが国には冬鳥として渡来するが数は少なく、本州以南ではまれである。県下では1959年12月1日、伊勢原市馬渡で採集された1例(野鳥の会横浜支・報 No. 28)があるのみ。(St)

ハイタカ属 (*Accipiter*)

83. オオタカ *Accipiter gentilis*

全北区の北緯70度と30度の範囲に繁殖。全

国の低山帯森林に繁殖し、秋冬には、低地にも出現する。県下では丹沢・箱根の山地で観察されるが多くはない。(R?)

84. ツミ *Accipiter virgatus*

アジア東部に繁殖。わが国では、四国以北の低山帯の林で繁殖し、秋に全国の低山や低地の林に漂行するが少なくない。箱根(田代道弥氏 1969)から記録がある他、丹沢ヤビツ峠一札掛で1羽(1969・⁴/_I)を観察した。(R?)

85. ハイタカ *Accipiter nisus*

旧北区の北緯70度と25度の範囲に繁殖。全国の山地の森林に生息し、秋冬には平地に漂行する。丹沢札掛で1羽(1968・⁶/_I)を観察した。(R?)

ノスリ属 (*Buteo*)

86. ノスリ *Buteo buteo*

旧北区の北緯66度と15度の範囲に繁殖。わが国では北海道から九州までの山地に繁殖し、冬季低地へ漂行する。例えば、戸塚区瀬上池1羽(1970・¹⁹/_I)。県下各地の山地で、観察されるが多くはない。(R)

サシバ属 (*Butastur*)

87. サシバ *Butastur indicus*

アジア東部に繁殖し、東南アジアに越冬する。わが国では、本州以西に夏鳥として渡来し、低山の森林で繁殖。秋季九州、沖縄を大群で渡る。しかし、近年は例えば徳之島では例年初秋に南下する大群がほとんど見かけられなくなった(平久長氏による)。県下各地の低山で観察される。(S)

クマタカ属 (*Spizaetus*)

88. クマタカ *Syzaetus nipalensis*

アジア東南部に分布する大型のタカ。日本がその分布北限で、北海道、本州、九州の山地に繁殖するが多くはない。冬季もあまり移動しない。県下では丹沢の札掛付近で観察されるが多くはない。(R?)

イヌワシ属 (*Aquila*)

89. カラフトワシ *Aquila clanga*

旧北区と東洋区の一部の北緯64度と45度の範囲に繁殖。わが国では極めてまれな迷鳥で

横須賀市久里浜 (1952・²¹/_Ⅻ:三島冬嗣氏 1956) の1例があるのみ。(St)

チュウヒ属 (*Circus*)

90. ハイイロチュウヒ *Circus cyaneus*

全北区の北緯70度と30度の範囲に繁殖。わが国には北海道から奄美大島まで渡来する冬鳥で、チュウヒより少ない。県下からは小田原(1884・I)での古い記録があるのみ。(W)

91. チュウヒ *Circus aeruginosus*

旧北区の北緯60度と47度の範囲に繁殖。わが国では北海道で少数が繁殖するが、本州以南には冬鳥として渡来する。県下では箱根(田代道弥氏 1969)に記録がある。(W)

15. ハヤブサ科 (FALCONIDÆ)

ハヤブサ属 (*Falco*)

92. ハヤブサ *Falco peregrinus*

(pl. 4. fig. 1)

猛鳥類のうち最も広く分布する種類で、北緯76度と南緯54度の広い範囲に繁殖。北方の個体群は渡りをする。わが国では本州中部以北の断崖で少数が繁殖する。県下には、冬鳥として渡来し、主に海岸付近にみられるが、数は少ない。藤沢市片瀬1羽(1968・¹⁴/_I)、城ヶ島1羽(1968・²⁰/_I)、横浜市三溪園(1969・¹/_Ⅻ)、真鶴半島1羽(1970・¹⁰/_Ⅱ)など。(W)

93. コチョウゲンボウ *Falco columbarius*

全北区の北緯72度と43度の範囲に繁殖。わが国へは冬鳥として海岸、農耕地、原野など開けた場所に渡来するが少ない。県下からは籾山徳太郎氏(1917)、田代道弥氏(1969)による記録がある。(W)

94. チョウゲンボウ *Falco tinnunculus*

(pl. 4. fig. 2)

旧北区、東洋区、エチオピア区の北緯70度と南緯34度の範囲に繁殖。北方の個体群は冬季南に渡る、わが国では本州の山地の断崖に集団で営巣する。県下では冬鳥として渡来するが多くはない。横浜市本牧1羽(1968・³/_Ⅳ)、磯子中原雄1羽(1969・¹³/_Ⅲ)、三浦半島黒崎の鼻1羽(1973・²⁵/_Ⅻ)など。(W)

キジ目 (GALLIFORMES)

16. キジ科 (PHASIANIDÆ)

ウズラ属 (*Coturnix*)

95. ウズラ *Coturnix coturnix*

旧北区、東洋区、エチオピア区の北緯64度と34度の広範囲に繁殖。わが国では本州中部以北の草原で繁殖し、以南では冬鳥。近年著しく減少した。例えば、多摩川畔には1963年頃までは越冬するものが普通であった。県下では冬季の観察例がある。葉山一色(1962・⁸/_Ⅲ:野鳥の会横浜支・報 No. 39)、毘沙門1羽(1964・¹⁴/_Ⅱ:野鳥の会横浜支・報 No. 49)など。(W)

コジユケイ属 (*Bambusicola*)

96. コジユケイ *Bambusicola thoracica*

原産地は、中国、台湾で、わが国へは1919年に移植され本州北部の多雪地帯を除く各地と四国、九州に定着した。県下各地に普通で、丹沢、箱根などの標高500m位までの山地にも進入している。(R)

キジ属 (*Phasianus*)

97. ヤマドリ *Phasianus soemmerringii*

本州、四国、九州のみに分布する日本特産種。キジより標高の高い山地の森林に生息し、開けた場所へは出ない。県下では丹沢・箱根を中心に県西部の山地に周年生息する。丹沢山々頂付近雄1羽(1968・¹²/_V)、丹沢長者舎雄1羽(1970・²³/_Ⅲ)など。(R)

98. キジ *Phasianus colchicus*

(pl. 4. fig. 3)

旧北区と東洋区の北緯52度と17度の範囲に繁殖。わが国には、本州以南屋久島までの平地から山地の明るい林や草原、農耕地などに生息する。県下では、箱根、丹沢、相模湖周辺、厚木、三浦半島などに周年生息する。箱根湖尻雄1羽、雌4羽(1970・¹²/_Ⅲ)、箱根仙石原1羽(1970・²²/_Ⅻ)など。(R)

ツル目 (GRUIFORMES)

17. ツル科 (GRUIDÆ)

ツル属 (*Grus*)

99. ナベヅル *Grus monacha*

シベリア東部、ウスリー、モンゴル北部などで繁殖。わが国へは冬鳥として渡来するが、定期的に飛来するのは鹿児島荒崎と山口県八代で、それ以外ではまれである。県下からは横浜での古い記録があるのみ。(St)

18. クイナ科 (RALLIDÆ)

クイナ属 (*Rallus*)

100. フコクイナ *Rallus aquaticus*

旧北区と恐らく東洋区の一部の北緯67度と27度の範囲に繁殖。わが国では、北海道で繁殖するものがあるが、多くは本州以南に冬鳥として湖沼、河川、水田などの湿地に渡来する。県下各地で観察されるが少ない。(W)

ヒメクイナ属 (*Porzana*)

101. ヒメクイナ *Porzana pusilla*

旧北区、エチオピア区、オセアニア区の北緯58度と南緯47度の広い範囲に繁殖。わが国では、本州北部以北に繁殖するが、その他の地方では旅鳥で多くはない。箱根強羅一大湧谷から1羽(1958・⁹/_X:田代道弥氏)の記録がある。(T)

102. ヒクイナ *Porzana fusca*

アジア極東部、東南アジア、インドなどに繁殖。北海道以南に、夏鳥として渡来し、河川、池沼、水田などの湿地に繁殖する。久里浜(1954・²⁸/_X:柴田敏隆氏)箱根強羅一大湧谷(1958・⁸/_X:田代道弥氏)などで記録されている。(S)

103. シマクイナ *Porzana exquisita*

シベリア東南部に繁殖し、日本、中国東南部に越冬する。わが国へは冬鳥として渡来するが少ない。県下からは横浜の古い記録の他、横須賀市佐原で雌1羽(柴田敏隆氏 1968)が記録されている。(St)

パン属 (*Gallinula*)

104. パン *Gallinula chloropus*

(pl. 5. fig. 1)

オーストラリアを除く、ほとんど全世界の

北緯64度と南緯38度の広い範囲に繁殖。わが国には全国各地の湖沼、水田、河川に夏鳥として渡来するが、本州以南では冬季残るものもある。鎌倉市深沢(1968・³⁰/_{IV})、横浜市三溪園1羽(1970・²¹/_I)、川崎市登戸多摩川(1973・⁸/_{III}:3雛連れ)など。(R)

ツルクイナ属 (*Gallinula*)

105. ツルクイナ *Gallinula cinerea* (St)

東洋区と旧北区の一部に繁殖。わが国では九州に繁殖記録があり、沖縄南部では少ないが、その他の地方ではまれ。県下からは神奈川区篠原(1934・XI)での記録があるのみ。(St)

オオバン属 (*Fulica*)

106. オオバン *Fulica atra*

旧北区、東洋区、オセアニア区の北緯65度と南緯44度の広い範囲に繁殖。わが国では、関東地方中部以北において繁殖する。県下では冬鳥と思われる。箱根芦ノ湖で1羽(1971・⁸/_X)を観察した他、南足柄郡和田ヶ原でも雌1羽(1973・⁴/_X:採集記録)が記録されている。(W)

チドリ目 (CHARADRIIFORMES)

19. タマシギ科 (ROSTRATULIDÆ)

タマシギ属 (*Rostratula*)

107. タマシギ *Rostratula benghalensis*

旧北区の一部、東洋区、オセアニア区に繁殖。わが国では関東地方以南に留鳥として生息するが、本州北部では少ない。県下各地の水田、蓮田、湿地にみられるが多くはない。鎌倉市深沢雌1羽、雄2羽(1968・¹⁷/_V)、小田原市柏山(1973・³⁰/_V 5雛)、鶴巻温泉(1973・⁴/_{IV})、横浜市戸塚区田谷2羽(1974・²³/_I)など。(R)

20. ミヤコドリ科

(HAEMATOPODIDÆ)

ミヤコドリ属 (*Haematopus*)

108. ミヤコドリ *Haematopus ostralegus*

(pl. 5. fig. 2)

旧北区の北緯71度と36度の範囲に繁殖。北方の個体群は冬季南方に渡る。昔は冬鳥として各地に普通にみられたというが現在ではまれな旅鳥として主に秋に出現する。

近年の記録として、浦賀・茅ヶ崎各幼鳥1羽 (1953・Ⅺ・三島冬嗣氏 1957)、横須賀 (1955・Ⅺ・三島冬嗣氏 1956)、横須賀市野比海岸 (1953・Ⅻ・柴田敏隆氏 1960)、馬堀海岸 (1963・寺島浩一氏 1964)、毘沙門 (1970・Ⅶ・中村 1971)。三浦半島毘沙門 (1973・Ⅰ：矢田孝氏観察 1974・Ⅰ：筆者観察) では最近2年連続1羽が越冬した。(St)

21. チドリ科 (CHARADRIIDÆ)

チドリ属 (*Charadrius*)

109. ハジロコチドリ

Charadrius hiaticula

旧北区北部と新北区北東部の北緯82度と48度の範囲に繁殖。わが国では渡りの季節に観察されるがごくまれな種類である。県下からは茅ヶ崎市 (1920・¹⁷/Ⅹ) からの1例があるのみ。(St)

110. コチドリ *Charadrius dubius*

旧北区、東洋区、オセアニア区の北緯66度と南緯10度の範囲に繁殖。わが国へは夏鳥として渡来し、海岸や中流以下の河原、砂礫地に営巣する。温暖な地方では越冬するものが少数いる。県下各地に普通。(S)

111. イカルチドリ *Charadrius placidus*

ウスリー、中国北部、朝鮮、日本に繁殖。北方のものは東南アジアに越冬する。全国の河原の主に中流以上の砂礫地に周年生息し繁殖する。県下では相模川、酒匂川など大きな河川に普通に観察される。(R)

112. シロチドリ *Charadrius alexandrinus*

コスモポリタンで北緯57度と南緯42度の全世界に繁殖。全国の海岸や河川下流の砂地に営巣し、冬季は大きな群れで生活する。県下では相模川、酒匂川など大きな河川に繁殖し、冬季各地の海岸で普通に観察される。(R)

113. メダイチドリ *Charadrius mongolus*

(pl. 5. fig. 3)

旧北区東北部に繁殖し、アフリカ、マダガスカル、インド、東南アジアなどに渡る。わが国へは、旅鳥として、河口の干潟、砂洲などに渡来する。酒匂川、相模川などの大きな河川の河口に普通に観察される。(Tr)

114. オオメダイチドリ

Charadrius leschenaultii

旧北区中緯度に繁殖し、東アフリカ、インド、東南アジア、オーストラリアなどに渡る。わが国へは本州以南に旅鳥として河口の干潟、砂洲などに渡来するが、メダイチドリより少ない。酒匂川 (1919・⁷/Ⅷ) から記録されている。(St)

115. オオチドリ *Charadrius asiaticus*

旧北区中緯度に繁殖し、東アフリカ、東南アジア、オーストラリアなどに渡る。わが国へは渡りの季節に耕地や乾燥した丈の低い草地などにごく少数が渡来する。県下からは、三浦半島宮田1羽 (1962・⁸/Ⅳ～¹⁴/Ⅳ：柴田敏隆氏・川島清氏 1963) の1例があるのみ。(St)

コバシチドリ属 (*Eudromias*)

116. コバシチドリ *Eudromias morinellus*

旧北区北部の北緯75度と42度の範囲に繁殖。わが国ではごくまれな種類で渡りの季節に少数が観察される。鶴沼 (1914・Ⅹ) と茅ヶ崎 (1915・Ⅹ) の2例があるのみ。(St)

ダイゼン属 (*Pluvialis*)

117. ムナグロ *Pluvialis dominica*

(pl. 6. fig. 1)

旧北区北東部と新北区北部の北緯75度と60度の範囲に繁殖。わが国には、旅鳥として春と秋に河口の干潟、砂洲、河原などに渡来する他乾燥した耕地などにも出現する。酒匂川河口8羽 (1968・¹/Ⅴ)、相模川河口8羽 (1973・²⁸/Ⅷ) など。(Tr)

118. ダイゼン *Pluvialis squatarola*

全北区北部の北緯75度と64度の範囲に繁殖。わが国へは春と秋に河口の干潟や海岸に渡来するが、本州中部以南では越冬するものもある。相模川河口で3羽 (1973・²⁴/Ⅹ) を

観察した。

(Tr)

タゲリ属 (*Vanellus*)

119. ケリ *Vanellus cinereus*

(pl. 6. fig. 2)

中国北部、モンゴルなどで繁殖し南アジアに越冬する。わが国では近畿地方以北の本州に繁殖し、冬季本州中部以南の水田、河原、干潟に小群で越冬する。近年、三浦半島に冬鳥として渡来するが多くはない。三浦半島宮田で2羽(1970・²⁵/_X)を観察した。横浜市戸塚区田谷の水田に最近1羽が渡来した(1974・²⁰/_I : 矢田孝氏観察)。(W)

120. タゲリ *Vanellus vanellus*

ヨーロッパ全域、アジアの主に北緯60度と40度の範囲、太平洋沿岸では、北緯68度と36度の範囲の旧北区に繁殖。わが国では多くは冬鳥として渡来するが、1973年石川県で繁殖が確認された(野鳥324号)。県下の記録は少なく、酒匂川河口(1957・⁴/_X : 杉崎一雄氏 1958)の他、近年では三浦半島宮田3羽(1962・⁴/_I : 野鳥の会横浜支・報 No. 39)、三浦半島和田1羽(1972・⁹/_I ~ ¹/_I : 野鳥の会横浜支・報 No. 95)の観察記録がある。(W)

22. シギ科 (SCOLOPACIDÆ)

キョウジョシギ属 (*Arenaria*)

121. キョウジョシギ *Arenaria interpres*

(pl. 6. fig. 3)

全北区北部の北緯83度と55度の範囲に繁殖。わが国へは春と秋に各地の河口の干潟、水田などに渡来する。酒匂川河口、相模川河口、三浦半島、笠島、三浦海岸、葉山など県下各地の海岸に普通。(T)

オバシギ属 (*Calidris*)

122. トウネン *Calidris ruficollis*

(pl. 7. fig. 1)

旧北区北東部、新北区北西部の北極圏の一部に繁殖し、東南アジア、オーストラリアなどに越冬する。わが国へは旅鳥として、河口の干潟、水田、河原などに普通に渡来する。酒匂川河口で12羽(1973・²⁷/_K)を観察した。(Tr)

123. ヒバリシギ *Calidris minutilla*

旧北区北部の北緯70度と47度の範囲に繁殖。わが国には主に秋海岸近くの草地や水田跡に渡来する。酒匂川河口(杉崎一雄氏 1958)から記録されている。(Tr)

124. オジロトウネン *Calidris temminckii*

旧北区北部の北緯74度と62度の範囲に繁殖。わが国へは春と秋に旅鳥として渡来するが越冬もする。辻堂雌1羽(1949・²⁵/_K)雄1羽(1949・²/_X : 以上黒田長久氏 1952)の採集記録の他、酒匂川河口(杉崎一雄氏 1958)での観察記録などがある。(Tr)

125. アメリカウズラシギ

Calidris melanotos

シベリアの北極海沿岸部、北アメリカ北部に繁殖。わが国へはごくまれな旅鳥として渡来し、秋の記録が多い。県下からは辻堂雌2羽(1949・²⁵/_K : 黒田長久氏 1952)辻堂雄1羽(1954・¹³/_X : 三島冬嗣氏 1956)の記録がある。(St)

126. ウズラシギ *Calidris acuminata*

旧北区北東部のうちシベリア北東部のツンドラに繁殖。わが国へは春と秋に、海岸や河口の干潟に規則的に渡来するが少ない。酒匂川河口(杉崎一雄氏 1968)、横浜市富岡埋立地(野鳥の会横浜支・報 No. 100)などで秋に観察されている。(Tr)

127. ハマシギ *Calidris alpina*

(pl. 7. fig. 2)

全北区の北緯77度と50度の範囲に繁殖。わが国へは北日本に旅鳥として、本州以南には冬鳥または旅鳥として渡来し、河口や干潟に群生する。県下に越冬する。酒匂川河口9羽、(1968・¹/_V)、相模川河口1羽(1973・²⁷/_K)など。(Tr)

128. サルハマシギ *Calidris ferruginea*

(pl. 7. fig. 3)

旧北区北東部の北緯77度と70度の範囲に繁殖。わが国へは春と秋に海岸や河口の干潟に渡来するが比較的少ない。酒匂川河口1羽(1958・²⁴/_V : 杉崎一雄氏 1968)の記録があ

る他、相模川河口で1羽(1973・²⁷/_K)を観察した。(Tr)

129. コオバシギ *Calidris canutus*

全北区の北緯33度と64度の範囲に繁殖。わが国へは春と秋に規則的に海岸や河口の干潟に渡来すると思われるが数は少ない。横浜からの古い記録がある。(Tr)

130. オバシギ *Calidris tenuirostris*

(pl. 8. fig. 1)

シベリア東部に繁殖し、東南アジア、オーストラリアなどに越冬する。わが国へは春と秋に海岸や河口の干潟に渡来し、泥質の場所を好む。相模川河口で11羽(1973・¹²/_K)を観察した。(Tr)

ミユビシギ属 (*Crocethia*)

131. ミユビシギ *Crocethia alba*

(pl. 8. fig. 2)

旧北区極北部、新北区北部に繁殖。わが国へは、春と秋に旅鳥として渡来し、外洋に面した砂浜に多い。酒匂川河口(1958・V: 杉崎一雄氏 1968)の記録がある他、相模川河口で10羽(1973・²⁴/_K)を観察した。(Tr)

ヘラシギ属 (*Eurynorhynchus*)

132. ヘラシギ *Eurynorhynchus pygmeus*

シベリア最東端チュクチ半島、アラスカで繁殖し、中国南部、マライ半島などに越冬する。わが国へは旅鳥として渡来するが少ない。県下からの最近の記録は、辻堂雌1羽(1950・⁷/_X)、雌1羽(1954・¹³/_X: 三島冬嗣氏 1956) 相模川河口1羽(1969・²¹/_K: 野鳥279号)の記録がある。(Tr)

エリマキシギ属 (*Philomachus*)

133. エリマキシギ *Philomachus pugnax*

(pl. 8. fig. 3)

旧北区北部の北緯73度と50度の範囲に繁殖。わが国では北海道と本州各地の干潟、水田跡、埋立地などで特に秋に観察されることが多い。辻堂(1919・IX)、茅ヶ崎(1919・²⁹/_K、1920・²⁹/_K)の採集記録の他、1973年9月24日~30日に相模川河口で雄2羽が観察された。(Tr)

キリアイ属 (*Limicola*)

134. キリアイ *Limicola falcinellus*

(pl. 9. fig. 1)

旧北区北西部の北緯70度と69度の範囲に繁殖。わが国へは、主に秋に海岸や河口の干潟に渡来するが春はごくまれである。酒匂川河口(杉崎一雄氏 1958)での観察記録がある他、相模川河口で1羽(1973・²⁷/_K)を観察した。(Tr)

オオハシシギ属 (*Limnodromus*)

135. オオハシシギ

Limnodromus scolopaceus

旧北区北東部、新北区北西部の北緯70度と61度の範囲に繁殖。わが国へは冬鳥として渡来し越冬するが、まれな種類である。県下からは横浜(1874・¹³/_{III})からの古い記録があるのみ。(St)

クサシギ属 (*Tringa*)

136. ツルシギ *Tringa erythropus*

旧北区北部の北緯72度と65度の範囲に繁殖。わが国へは、春と秋に河口や海岸の干潟、水田などの湿地に渡来するが、春に多い。酒匂川河口で少数が春に記録されている(杉崎氏一雄 1958)。(Tr)

137. アカアシシギ *Tringa totanus*

旧北区の北緯71度と39度の範囲に繁殖するがアジアでは主に北緯53度より南に繁殖。わが国では北海道東部に少数が繁殖する(鳥91、92号)他、春と秋に海岸や河口の干潟に旅鳥として渡来するが少ない。県下からは小田原海岸(1915・²³/_K: 杉崎一雄 1958)の記録のみ。(Tr)

138. コアオアシシギ *Tringa stagnatilis*

旧北区中部と東部の北緯57度と45度の範囲に繁殖。わが国へは秋に内陸の池沼、水田跡などに渡来するが数は少ない。酒匂川河口で1羽(杉崎一雄氏 1958・¹⁶/_K: 野鳥の会横浜支・報 No. 19)が観察されている。(Tr)

139. アオアシシギ *Tringa nebularia*

主として旧北区の北緯65度と55度の範囲に繁殖。わが国では春と秋の渡りのとき海岸や河口の干潟や砂洲で観察される。酒匂川河口

(杉崎一雄氏 1958) の記録の他、横浜市富岡埋立地 (1972・²⁵/_Ⅲ~⁴/_Ⅹ:野鳥の会横浜支・報 No. 100) で観察されている。(Tr)

140. クサシギ *Tringa ochropus*

旧北区の北緯68度と49度の範囲に繁殖。わが国へは、旅鳥または冬鳥として内陸の水田や湿地に渡来するが海岸の干潟へは出ない。酒匂川河口で秋に少数が観察されている(杉崎一雄氏 1958)。(Tr)

141. タカブシギ *Tringa glareola*

(pl. 9. fig. 2)

旧北区の北緯71度と51度の範囲に繁殖。わが国では旅鳥として特に秋に多い。海岸の干潟に出ることはまれで多くは内陸の池沼、水田の刈跡などで観察される。酒匂川河口で7羽(1968・¹¹/_Ⅹ)を観察した。(Tr)

142. キアシシギ *Tringa incana*

(pl. 9. fig. 3)

シベリア北東部、アラスカに繁殖。わが国には旅鳥として春と秋全国に渡来する。県下で最も普通のシギで、各地の干潟、河口、水田、海岸などに多く観察される。(Tr)

143. イソシギ *Tringa hypoleucos*

旧北区の北緯71度と33度の範囲に繁殖。わが国では、本州中部以北に繁殖し、中部以南では旅鳥または冬鳥として普通。県下に少数が繁殖する他、冬季も各地の岩礁海岸、水田跡などで観察される。(R)

ソリハシシギ属 (*Xenus*)

144. ソリハシシギ *Xenus cinereus*

旧北区東部と中央部の北緯70度と52度の範囲に繁殖。わが国へは春と秋に海岸や河口の干潟に渡来するが秋に多い。相模川河口3羽(1973・¹²/_Ⅹ)、三浦半島毘沙門1羽(1973・²⁵/_Ⅹ)など。(Tr)

オグロシギ属 (*Limosa*)

145. オグロシギ *Limosa limosa*

(pl. 10. fig. 1)

旧北区の北緯65度と47度の範囲に繁殖。わが国へは春と秋に旅鳥として海岸や干潟などに渡来するが秋に多い。相模川河口で3羽

(1973・¹²/_Ⅹ)を観察した。(Tr)

146. オオソリハシシギ *Limosa lapponica*
(pl. 10. fig. 2)

旧北区北部と新北区北西部の北緯76度と60度の範囲に繁殖。わが国には春と秋、河口や干潟に渡来する。酒匂川河口(杉崎一雄 1958)から記録がある他、相模川河口で11羽(1973・²⁴/_Ⅹ)を観察した。(Tr)

ダイシャクシギ属 (*Numenius*)

147. ダイシャクシギ *Numenius arquata*

旧北区の北緯70度と46度の範囲に繁殖。わが国には多くは旅鳥として渡来するが、温暖な地方では越冬するものもある。広い干潟のない県下では数少ない。横須賀市野比海岸(1964・²⁶/_Ⅹ:野鳥の会横浜支・報 No. 52)、横浜市富岡(野鳥の会横浜支・報 No. 100)など。(Tr)

148. ホウロクシギ

Numenius madagascariensis

シベリア東部、カムチャッカ半島北部などで繁殖。冬季、オーストラリア、ニュージーランドに渡る。わが国では海岸や河口の広い干潟に旅鳥として渡来する。酒匂川河口(1958・²/_Ⅳ~⁴/_Ⅳ:杉崎一雄氏 1968)、横浜市富岡埋立地(1972・²⁸/_Ⅳ:野鳥の会横浜支・報 No. 100)などの観察記録があるが少ない。(Tr)

149. チュウシャクシギ

Numenius phaeopus

(pl. 10. fig. 3)

旧北区北部の北緯71度と55度の範囲に繁殖。わが国へは、春と秋、海岸や河口の干潟に渡来する旅鳥であるが春に多い。鎌倉市深沢20羽(1968・²⁰/_Ⅴ)、三浦半島笠島約30羽(1969・¹⁸/_Ⅴ)、相模川河口1羽(1973・²⁸/_Ⅴ)など。(Tr)

ヤマシギ属 (*Scolopax*)

150. ヤマシギ *Scolopax rusticola*

旧北区の北緯70度と28度の範囲に繁殖。わが国では本州中部以北、伊豆七島の山地の森林に繁殖。冬季本州以南の低地に漂行する。県下各地の山地で観察される。(R)

タシギ属 (*Gallinago*)

151. タシギ *Gallinago gallinago*

オーストラリアと恐らく南米を除く、ほとんど全世界(東洋区はごく一部に)の北緯71度と43度の範囲に繁殖。わが国へは、秋に渡来するが、本州以南では越冬するものも多い。県下各地の蓮田、水田、湿地などに普通に越冬する。(W)

152. ハリオシギ *Gallinago stenura*

旧北区東北部に繁殖し、東南アジア、インドに越冬する。わが国には春と秋の渡りの季節にごく少数が通過する。県下では横浜からの古い記録があるのみ。(Tr)

153. チュウジシギ *Gallinago megala*

旧北区中部と東部に繁殖し、インド、マレーシア半島、オーストラリア北部などに越冬する。わが国には春と秋に湿地、水田、蓮田に旅鳥として渡来するが少ない。県下からは横浜からの古い記録があるのみで渡来のようにすは不明。(Tr)

154. オオジシギ *Gallinago hardwickii*

日本のみに繁殖し、オーストラリア、タスマニア、ニュージーランドなどに越冬する。本州中部以北の500~1,000mの草原で繁殖し、渡りの季節には、湿地、水田、蓮田などにも出現する。県下では、箱根仙石原に少数が繁殖するが、近年激減した。(S)

155. アオシギ *Gallinago solitaria*

旧北区東南部に繁殖。わが国へは北海道以南の1,500m以下の山間の溪流沼沢地に冬鳥として渡来するが数少ない。県下では、横浜からの古い記録があるのみで、渡来状況については不明。(W)

コシギ属 (*Lymnocyptes*)

156. コシギ *Lymnocyptes minima*

旧北区北部の北緯70度と53度の範囲に繁殖し、冬季アフリカ、ヨーロッパ南部、インド、東南アジアに渡り越冬する。わが国では北海道、本州で秋と冬にまれに採集される。県下からは、横浜(1879・X)からの古い記録があるのみ。(W)

23. セイタカシギ科

(RECURVIROSTRIDÆ)

セイタカシギ属 (*Himantopus*)

157. セイタカシギ

Himantopus himantopus

北緯50度と南緯47度のほとんど全世界に繁殖。わが国には旅鳥または冬鳥として渡来するが少ない。1973年(XI-XII)に磯子区の埋立地で1羽が観察された(麻布獣医大・野鳥研：鈴鹿三重子氏観察)。(St)

24. ヒレアシシギ科

(PHALAROPODIDÆ)

ハイロヒレアシシギ属 (*Phalaropus*)

158. ハイロヒレアシシギ

Phalaropus fulicarius

全北区北部の北緯82度と60度の範囲に繁殖。わが国では春と秋の渡りの季節に海上へ多数渡来するが、アカエリほど接岸せず目につくことは少ない。近年では相模湾諸磯~葉山沖5羽(1970・¹⁰/V：中村 1971)の観察記録がある。(Tr)

159. アカエリヒレアシシギ

Phalaropus lobatus

全北区北部の北緯74度と52度の範囲に繁殖。わが国では春と秋に海上で大群がみられる旅鳥であるが、内陸の湖沼、海岸の潮溜りなどにも少数が出現する。相模湾沿岸で普通に観察される。(Tr)

25. ツバメチドリ科 (GLAREOLIDÆ)

ツバメチドリ属 (*Glareola*)

160. ツバメチドリ *Glareola maldivarum*

旧北区中緯度以南、アフリカなどに繁殖。わが国へは多くは夏から秋にかけての渡りの季節に若鳥が不規則に渡来するが多くはない。酒匂川・松田付近12羽(1958・¹⁵/Ⅷ：高野伸二氏観察)の記録がある。(Tr)

26. トウゾクカモメ科

(STERCORARIIDÆ)

トウゾクカモメ属 (*Stercorarius*)

161. オオトウゾクカモメ

Stercorarius skua

南北両極圏に繁殖。日本近海で観察される亜種は南極周辺部に繁殖するもので、春秋に旅鳥として出現するが、沿岸でみられることは少ない。(Tr)

162. トウゾクカモメ

Stercorarius pomarinus

全北区の北極圏に繁殖し、冬季南西アフリカ、オーストラリア、ニュージーランドなどに渡る。春季相模湾沿岸で観察されるが多くはない。三浦半島では漁港にも侵入することがある。(Tr)

163. クロトウゾクカモメ

Stercorarius parasiticus

全北区北部の北緯82度と52度の範囲に繁殖し、南アメリカ、アフリカ、オーストラリア、ニュージーランドなど冬季南半球一帯に渡る。日本近海には春と秋の渡りの季節に出現するが少ない。相模湾から記録されている(松平頼孝氏 1939)。(Tr)

164. シロハラトウゾクカモメ

Stercorarius longicaudus

全北区北部の北緯83度と25度の範囲に繁殖し、冬季は南緯50度までの大西洋、太平洋に渡る。春季相模湾沿岸で観察されるが、多くはない。(Tr)

27. カモメ科 (LARIDÆ)

カモメ属 (*Larus*)

165. ユリカモメ *Larus ridibundus*

旧北区の北緯66度と40度の範囲に繁殖。近年北アメリカ東部に定着した。わが国では本州以南に冬鳥(北海道では旅鳥)として渡来する。県下各地の海岸、河口、漁港に多く、内陸の河川、湖沼にも入る。相模川河口で夏羽から冬羽に移行中のもの2羽(1973・28/Ⅲ)を観察した。(W)

166. セグロカモメ *Larus argentatus*

全北区の北緯78度と40度の範囲に繁殖。わ

が国には、全国に冬鳥として普通に渡来する。県下各地の海岸、漁港、河口などに普通。(W)

167. オオセグロカモメ *Larus schistisagus*

カムチャッカ半島から千島列島、北海道北部にかけての沿海離島に繁殖。冬鳥として本州に渡来するが北日本に多い。相模湾沿岸で観察されるが多くはない。(W)

168. ワシカモメ *Larus glaucescens*

ベーリング海沿岸、アラスカ沿岸に繁殖し冬季カリフォルニア南部、日本に南下して越冬する。北日本に多く、本州中部以南ではまれである。県下では酒匂川河口1羽(1960・2/Ⅲ：杉崎一雄氏)、観音崎沖東京湾1羽(1965・5/Ⅲ：柳沢紀夫氏観察)などが記録されている。(W)

169. シロカモメ *Larus hyperboreus*

全北区北部の北緯83度と60度の範囲に繁殖。冬鳥として渡来するが、北日本に多い。県下各地の漁港、海岸、河口などで観察されるが少ない。(W)

170. カモメ *Larus canus*

旧北区と新北区、北西部の北緯70度と50度の範囲に繁殖。全国各地に冬鳥として渡来する。県下では横浜港など内湾に多く、酒匂川河口、江の島、三浦半島小田和湾など、相模湾沿岸には比較的少ない。(W)

171. ウミネコ *Larus crassirostris*

日本列島とその周辺に固有で全国各地の離島で繁殖する。県下でみられる最も普通のカモメで、三浦半島小田和湾や相模川河口などに非繁殖鳥が集団で残留し越冬する。(W.R)

172. ミツユビカモメ *Larus tridactylus*

全北区北部の北緯81度と47度の範囲に繁殖。冬鳥(北海道では旅鳥)として渡来し、北日本に多い。県下各地の海岸、河口、漁港で観察されるが、沖合いに多い。1969年3月三浦半島小田和湾に3,000羽越える大群が渡来した(中村 1971)。(W)

アジサシ属 (*Sterna*)

173. ハシグロクロハラアジサシ

Sterna niger

全北区の北緯60度と36度の範囲に繁殖し、冬季、熱帯アフリカ、南アメリカに渡る。わが国からは1971年9月、三浦半島小田和湾から記録された夏羽のもの1例(中村 1972)があるのみ。(St)

174. ハジロクロハラアジサシ

Sterna leucoptera

旧北区の主に北緯55度と40度(イラクでは30度)の範囲と孤立的にエチオピア区に繁殖。わが国では主に秋の渡りの季節にみられるが、少ない。県下からは酒匂川河口(杉崎一雄氏 1968)、三浦半島小田和湾(中村 1971)の2例があるのみ。(St)

175. オオアジサシ *Sterna bergii*

熱帯太平洋の諸島に繁殖。分布は広いが多くはない。わが国では徳之島以南の南西諸島の孤島に繁殖するが、その他の地方ではまれに出現する。県下からは三浦半島小田和湾1羽(1969・¹⁵/_V; 中村 1971)の1例のみ。(St)

176. チュウアジサシ *Sterna hirundo*

全北区の北緯70度と6度の範囲に繁殖。わが国には旅鳥として春と秋の渡りの季節に海上、河口の干潟、漁港などに多数渡来する。県下では特に三浦半島小田和湾に毎年1,000羽を越す大群が渡来する。(Tr)

177. コシジロアジサシ *Sterna aleutica*

ベーリング海、オホーツク海沿岸に繁殖。冬季他種のように南下せず北太平洋沿岸に残留する唯一の種類。近年では酒匂川河口1羽(1969・²/_{VI}; 高野伸二氏 1969)の迷行例がある。(St)

178. セグロアジサシ *Sterna fuscata*

主に全太平洋の熱帯の島々、北緯30度と南緯34度の範囲に繁殖。わが国では小笠原諸島、沖縄諸島南部で繁殖するが、その他の地方ではまれである。最近では、相模川河口1羽(1966・²⁶/_N; 高野凱夫氏観察)からの観察記録がある。(St)

179. コアジサシ *Sterna albifrons*

コスモポリタン(南米ではごく一部)で

北緯59度と南緯37度の広い範囲に繁殖。わが国へは本州以南に夏鳥として渡来し、海岸、河原、砂礫地などに繁殖する。県下では、相模川、酒匂川など大きな河川に繁殖し、渡りの季節には大群が河口に集まる。相模川河口で約350羽(1973・⁴/_{III})を観察した。(S)

クロアジサシ属 (*Anous*)

180. クロアジサシ *Anous stolidus*

熱帯太平洋に繁殖。わが国では小笠原、硫黄列島、沖縄諸島、南鳥島などに繁殖するが、その他の地方ではまれな迷鳥である。三浦半島笠島(1970・¹³/_{III}; 中村 1971)の1例があるのみ。(St)

28. ウミスズメ科 (ALCIDÆ)

ウミガラス属 (*Uria*)

181. ハシブトウミガラス *Uria lomvia*

全北区北部の北緯82度と47度の範囲に繁殖。わが国へは冬鳥として渡来し、北日本以北にみられるが、ウミガラスほど多くはない。県下からは真鶴半島1羽(1953・⁵/_I; 田代道弥氏 1953)の採集記録があるのみ。(St)

ウミバト属 (*Cephus*)

182. ケイマフリ *Cephus carbo*

朝鮮半島以北の東アジア沿岸に繁殖。わが国では北日本の離島に繁殖し、冬季本州中部に南下する。県下では相模湾、三浦半島沿岸でよく観察される。最近では城ヶ島沖で1羽(1974・²³/_I)を観察した。(W)

マダラウミスズメ属 (*Brachyramphus*)

183. マダラウミスズメ

Brachyramphus marmoratus

繁殖期にカムチャッカ半島から北アメリカ北西沿岸にかけてみられる。わが国では冬鳥として渡来するが、北日本に多い。北海道の離島では各地で夏羽の個体が観察されている。(W)

ウミスズメ属 (*Synthliboramphus*)

184. ナミウミスズメ

Synthliboramphus antiquus

千島列島、ベーリング海沿岸などに繁殖。
わが国では北海道の離島に繁殖し、以南に冬鳥として沿岸に渡来するが北日本に多い。最近では三浦半島笠島沖で2羽(1973・²⁰/Ⅹ)を観察した。(W)

185. カンムリウミスズメ

Synthliboramphus wumizusume

日本近海に特産の暖流種で、本州中部以南、九州までの離島で繁殖するが多くはない。(S)

エトロフウミスズメ属 (*Aethia*)

186. エトロフウミスズメ

Aethia cristatella

ベーリング海、千島列島沿岸に繁殖。わが国へは北海道、本州北部の海上に冬鳥として渡来する。横浜付近からの古い記録があるのみ。(St)

187. コウミスズメ *Aethia pusilla*

ベーリング海沿岸、アラスカで繁殖。わが国へは北海道、本州北部の海上に冬鳥として渡来する。本州中部以西ではまれである。(St)

ウトウ属 (*Cerorhinca*)

188. ウトウ *Cerorhinca monocerata*

ベーリング海沿岸、千島列島、東アジア沿岸に繁殖。わが国では北海道、本州北部の離島に繁殖し、冬には駿河湾付近まで南下する。荒崎沖で1羽(1972・²⁹/Ⅲ)を観察した。(W)

ツノメドリ属 (*Fratercula*)

189. ツノメドリ *Fratercula corniculata*

オホーツク海沿岸、ベーリング海沿岸に繁殖し、わが国へは冬鳥として本州北部、北海道に渡来するが多くはない。(St)

ハト目 (COLUMBIFORMES)

29. サケイ科 (PTEROCLIDIDÆ)

サケイ属 (*Syrnhaptes*)

190. サケイ *Syrnhaptes paradoxus*

旧北区中央部の北緯50度と37度の範囲に繁殖。近年わが国へは1968～69年の冬に山形

県、新潟県、滋賀県へ1羽ずつ渡来した。県下から1922年11月頃、相模川で捕獲された雌雄、各1羽の記録がある。(St)

30. ハト科 (COLUMBIDÆ)

アオバト属 (*Sphenurus*)

191. アオバト *Sphenurus sieboldii*

アジア東南部の限られた地域に繁殖する。熱帯系の種類では九州以北のよく茂った常緑広葉樹林に繁殖し、冬季は、温暖な地方へ漂行する。海水を飲むために海岸に降りることもある。丹沢山雄1羽、雌1羽(1968・¹²/Ⅴ)丹沢ホーキ沢ヤマグワの実を食べる4羽(1970・¹⁰/Ⅳ)、真鶴岬1羽(1974・¹/Ⅰ)など。(R)

カラスバト属 (*Columba*)

192. カラスバト *Columba janthina*

日本列島周辺の特産種で主に本州中部以西の太平洋側の温暖な地域に周年生息する。横須賀市沖の猿島にはかつて多数が生息していた(Blackiston & Preyer 1882)が絶滅した。(T)

キジバト属 (*Streptopelia*)

193. ベニバト *Streptopelia tranquebarica*

中国北部、フィリッピン、東南アジア、インドなどに繁殖。わが国では迷鳥としてまれに渡来する。県下からは横浜からの古い記録があるのみ。(St)

194. キジバト *Streptopelia orientalis*

旧北区中央部と東部、東洋区北部に繁殖し、北方の個体群は渡りをして、インド、東南アジアなどに越冬する。わが国では平地から山地の林に繁殖する。県下各地に普通で海岸でも見られ、樹木があれば、都会にも営巢する。(R)

ホトトギス目 (CUCULIFORMES)

31. ホトトギス科 (CUCULIDÆ)

ホトトギス属 (*Cuculus*)

195. ジュウイチ *Cuculus fugax*

アジア東南部に繁殖し北方の個体群は、南アジアで越冬する。わが国へは、夏鳥として、

四国以北の低山から亜高山の林に渡来し繁殖する。県下各地の山地で観察される。(S)

196. カッコウ *Cuculus canorus*

旧北区と東洋区北部の北緯70度と20度の範囲に繁殖。冬季熱帯アフリカ、インドから中国南部の亜熱帯アジアに渡る。わが国へは夏鳥として渡来し、明るい林やまばらに木の生えた草原に生息する。県下各地で観察される。(S)

197. ツツドリ *Cuculus saturatus*

旧北区・東部、東洋区の一部に繁殖し、冬季インド、マレーシア、オーストラリアなどに渡り越冬する。わが国へは四国以北に夏鳥として渡来する。丹沢・箱根などの山地で観察される。(S)

198. ホトトギス *Cuculus poliocephalus*

アジア東南部とマダガスカルに繁殖。北方の個体群は南アジアに越冬する。わが国へは夏鳥として九州以北の低山から亜高山の林に渡来し繁殖する。県下各地の山地で観察される。(S)

フクロウ目 (STRIGIFORMES)

32. フクロウ科 (STRIGIDÆ)

ワシミミズク属 (*Bubo*)

199. ワシミミズク *Bubo bubo*

旧北部、東洋区東部、エチオピア区東部の北緯69度と10度の範囲に繁殖。わが国では北海道の原生林に生息するが、数は少ない。県下からは、田代道弥氏(1969)の目録にあるのみ。(St)

トラフズク属 (*Asio*)

200. トラフズク *Asio otus*

全北区の北緯66度と28度の範囲に繁殖。わが国では、北海道、本州中北部の山地に少数が繁殖する他、北方から冬鳥として渡来し、越冬するものもある。靱山徳太郎氏(1917)の記録がある。(W)

201. コミミズク *Asio flammeus*

全北区、新熱帯区、中部太平洋の北緯72度と南緯53度の広い範囲に繁殖。わが国へは冬鳥

として渡来し、草原や耕地の地上に生活し、昼間も活動する。酒匂川河口1羽(1957・21/XI: 杉崎一雄氏)で記録されている。(W)

コノハズク属 (*Otus*)

202. コノハズク *Otus scops*

旧北区と東洋区の北緯56度と8度の範囲に繁殖。わが国では本州以北、沖縄までの山地の森林にすみ繁殖するが、冬季南方へ渡るものもある。県下各地の山地で観察される。(R)

203. オオコノハズク *Otus asio*

アジア東部と北アメリカに繁殖。わが国ではほぼ全国の平地の巨木のある森林や低山帯の森林で繁殖し、冬季市街地や公園に漂行するものもある。県下では丹沢・箱根などの山地で観察される。(R)

アオバズク属 (*Ninox*)

204. アオバズク *Ninox scutulata*

(pl. 11. fig. 1)

東旧北区東南部、東洋区に繁殖。北方の個体群は冬季南に渡る。わが国には夏鳥として全国に渡来する。大きな岩の割れ目にも営巣することがあるが多くの樹洞に営巣し、巨木があれば都会地でも繁殖する。例えば横浜市南区日野町(1972・2/VII: 3 雛)、他に厚木市下川入(1973・15/VII: 3 雛)、鎌倉市長谷寺(1973・11/II)などで繁殖を確認した。(S)

フクロウ属 (*Strix*)

205. フクロウ *Strix uralensis*

旧北区中緯度に繁殖。わが国では、全国の平地から低山の巨木のある森林に繁殖し、季節による大きな移動はしない。県下各地の山地で観察される。(R)

ヨタカ目 (CAPRIMULGIFORMES)

33. ヨタカ科 (CAPRIMULGIDÆ)

ヨタカ属 (*Caprimulgus*)

206. ヨタカ *Caprimulgus indicus*

旧北区東部、東洋区に繁殖。わが国には全国に夏鳥として渡来し、草原の林縁や低木林に繁殖する。県下各地に普通。(S)

アマツバメ目 (APODIFORMES)

34. アマツバメ科 (APODIDÆ)

ハリオアマツバメ属 (*Chaetura*)

207. ハリオアマツバメ

Chaetura caudacuta

旧北区の中央部と東部、東洋区北部の北緯度60と20度の範囲に繁殖し、冬季オーストラリアとタスマニアに渡る。わが国では北海道と本州（亜高山帯以上）に繁殖する。県下では、アマツバメ同様渡りの季節に平地上空で観察されるが、アマツバメに比べて少ない。

(S)

アマツバメ属 (*Apus*)

208. ヒメアマツバメ *Apus affinis*

(pl. 11. fig. 2)

旧北区南西部、エチオピア区、東洋区の北緯40度と35度の範囲に繁殖。わが国では1965年頃からコシアカツバメの古巣を利用してはじめて営巣し始め、現在では神奈川県以西の太平洋岸の温暖な地方に定着した。県下では小田原市内で繁殖する。

(R)

209. アマツバメ *Apus pacificus*

東旧北区と東洋区の一部に繁殖し、冬季、オーストラリアやタスマニアに渡る。わが国では北海道から九州に夏鳥として渡来し、海岸から高山にいたるまでの岩壁に集団で繁殖する。津久井湖道志 1羽 (1969・7/Ⅳ)、小田原市柏山約35羽 (1973・23/Ⅴ) など。

(S)

ブッポウソウ目 (CORACIIFORMES)

35. カワセミ科 (ALCEDINIDÆ)

ヤマショウビン属 (*Halcyon*)

210. アカショウビン *Halcyon coromanda*

アジア東南部に繁殖。わが国へは夏鳥として渡来し、低山帯のよく繁茂した広葉樹林中の溪流や沢沿いに生息するが多くはない。県下では丹沢・箱根などの山地の森林で観察される。

(S)

カワセミ属 (*Alcedo*)

211. カワセミ *Alcedo atthis*

旧北区、東洋区、オセアニア区の北緯60度

と南緯10度の範囲に繁殖。わが国では、全国の平地から低山の河川、池沼に繁殖するが、近年平地では著しく減少した。酒匂川河口 1羽 (1968・11/Ⅳ)、津久井湖 1羽 (1969・7/Ⅳ)、箱根仙石原 1羽 (1970・22/Ⅳ)、相模原県淡水試験場 2羽 (1972・28/Ⅰ) など。

(R)

カノコショウビン属 (*Ceryle*)

212. ヤマセミ *Ceryle lugubris*

旧北区東南部、東洋区に繁殖する南方系で、わが国では、ほぼ全国の山地の溪流谷間に繁殖するが深い森林には入らない。冬季もあまり移動しない。県下では丹沢・箱根などの山地で観察されている。

(R)

36. ブッポウソウ科 (CORACIDÆ)

ブッポウソウ属 (*Eurystomus*)

213. ブッポウソウ *Eurystomus orientalis*

(pl. 11. fig. 3)

東旧北区極東部、アジア全域、オセアニア区までに繁殖し、北方の個体群は渡りをする。全国に夏鳥として渡来し巨木のある低山に繁殖するが、局所的で数は多くはない。清川村別所 (1966・16/Ⅳ：樹洞に営巣) 丹沢本谷川上流 (1969・11/Ⅳ) 津久井湖道志鉄橋 (1969・7/Ⅳ：鉄骨に営巣) など。

(S)

37. ヤツガシラ科 (UPUPIDÆ)

ヤツガシラ属 (*Upupa*)

214. ヤツガシラ *Upupa epops*

旧北区、エチオピア区、東洋区の北緯59度と南緯35度の範囲に繁殖し、北方の個体群は冬季南に渡る。わが国にはまれな迷鳥として出現する。1972年3月27日、藤沢市鵜沼で1羽が観察された (野鳥 318号)。

(St)

キツツキ目 (PICIFORMES)

38. キツツキ科 (PICIDÆ)

アリスイ属 (*Jynx*)

215. アリスイ *Jynx torquilla*

旧北区の北緯67度と35度の範囲に繁殖し、ほとんどの個体群が渡りをする。わが国で

は北海道・本州北部の明るい林に繁殖し、本州以南に越冬する。県下では冬鳥で数は少ない。横須賀（柴田敏隆氏）、箱根仙石原（田代道弥氏）、金沢区長浜1（1966・¹²/_Ⅻ：野鳥の会横浜支・報 No. 65）、戸塚区小雀浄水場（1973・¹⁸/_Ⅱ：野鳥の会横浜支・報 No. 99）など。（W）

アオゲラ属 (*Picus*)

216. アオゲラ *Picus avokera*

本州から屋久島までに繁殖する。日本特産種で、低山帯から亜高山帯下部の広葉樹林に生息する。北海道のヤマゲラに近縁。丹沢本谷川上流で1羽（1969・¹¹/_Ⅺ）を観察した。（R）

アカゲラ属 (*Dendrocopos*)

217. アカゲラ *Dendrocopos major*

旧北区に広く繁殖し、一部東洋区にまたがる北緯61度と20度の範囲に繁殖。わが国では本州以北の落葉広葉樹林で繁殖する。箱根駒ヶ岳1羽（1968・¹⁹/_Ⅸ）、丹沢山1羽（1968・¹²/_Ⅻ）など。（R）

218. オオアカゲラ *Dendrocopos leucotos*
(pl. 12. fig. 1)

旧北区と東洋区の一部に繁殖。わが国では奄美大島以北の山地の広葉樹林に繁殖し、一般にアカゲラより数は少ない。冬季平地に漂行する丹沢塔ヶ岳1羽（1968・¹/_Ⅰ）、札掛1羽（1968・⁶/_Ⅰ）など。（R）

219. コゲラ *Dendrocopos kizuki*
(pl. 12. fig. 2)

東旧北区東部の狭い範囲に繁殖する小型種。全国に広く分布し、平地から山地の森林に繁殖する。非繁殖期にはカラ類に混じることがある。県下に留鳥として普通。（R）

スズメ目 (PÀSSERIFORMES)

39. ヒバリ科 (ALAUDIDÆ)

ヒメコウテンシ属 (*Calandrella*)

220. ヒメヒバリ *Calandrella cinerea*

旧北区南部とエチオピア区の北緯50度と南緯35度の範囲に繁殖し、アフリカ、インド、中

国東部、東南アジアに渡る。わが国では極くまれな迷鳥で、県下では酒匂川下流（1958・⁶/_Ⅵ：杉崎一雄氏 1959）から1例あるのみ。（St）

ヒバリ属 (*Alauda*)

221. ヒバリ *Alauda arvensis*

旧北区の北緯70度と30度の範囲に繁殖。全国各地の畑地、河原、草原、海岸埋立地などの低地に生息する留鳥であるが、乾燥した高原にも侵入することがある。北日本では夏鳥で、冬季温暖な地方に漂行する。県下各地に普通。（R）

40. ツバメ科 (HIRUNDINIDÆ)

ショウドウツバメ属 (*Riparia*)

222. ショウドウツバメ *Riparia riparia*

全北区と東洋区の北緯70度と24度の範囲に繁殖。わが国では北海道と東北地方の一部に繁殖し、本州では旅鳥として渡来する。渡りの際本州沿岸部の草原や砂浜海岸などに大群がみられるが、県下では松平頼孝氏（1915）の酒匂川の記録のみ。（Tr）

ツバメ属 (*Hirundo*)

223. ツバメ *Hirundo rustica*

全北区、東洋区北部の北緯71度と20度の範囲に繁殖。わが国には多くは夏鳥として渡来するが、北方の繁殖個体群が一部日本に越冬する（内田康夫氏）。県下各地に普通で人家があれば山間地にも繁殖する。例えば、宮ヶ瀬（1969・¹¹/_Ⅺ）、中川温泉（1970・¹⁰/_Ⅹ）など。（S）

224. コシアカツバメ *Hirundo daurica*

旧北区南部、東洋区、エチオピア区、北緯54度と南緯15度の広い範囲に繁殖。わが国では九州から北海道まで繁殖するが、関東以北には少ない。県下では県西南部から東南部の海岸沿いに繁殖する。（S）

イワツバメ属 (*Delichon*)

225. イワツバメ *Delichon urbica*

(pl. 12. fig. 3)

旧北区と東洋区の北緯71度と23度の広い範

囲に繁殖。ほとんど、全国で繁殖する夏鳥であるが越冬するものもある。例えば酒匂川河口約45羽(1969・¹⁶/_I)。また近年平地に進出し、人為環境にも営巣する。例えば、足柄上郡開成町(1973・¹⁵/_{VI}:1972年春より新コロニー形成)。渡りのときは、大群となる。例えば、酒匂川河口約350羽(1968・¹¹/_K)。(S)

41. セキレイ科 (MOTACILLIDÆ)

セキレイ属 (*Motacilla*)

226. キセキレイ *Motacilla cinerea*

旧北区の北緯66度と22度の範囲で繁殖。わが国では、九州以北の平地より高山帯までの水辺、溪流に沿って標高に関係なく広く分布するが、海岸にはほとんど出ない。県下各地に周年生息し繁殖する。(R)

227. ハクセキレイ *Motacilla alba*

旧北区、エチオピア区、東洋区の北緯75度と南緯35度の範囲に繁殖。わが国では北海道本州北部、中部に繁殖し、以南には冬鳥として渡来する。

各地の海岸、内陸の湿地に普通であるが、宅造地など乾燥した所にも進出し、城ヶ島のウの越冬コロニーにも住む。近年栃木県鹿沼市(1965年、野鳥 238号)、茨城県水戸市(1968年、野鳥 267号)など本州中部での繁殖が記録され、横浜市のビル街でも夏季幼鳥が観察された(1972・²⁸/_{VI})。(W)

228. セグロセキレイ *Motacilla grandis*

北海道から、九州までの日本列島に限って繁殖する日本固有種。ハクセキレイが海岸に繁殖するのに対し、本種は主に内陸で繁殖する。県下各地の河原、水田など水辺に普通。(R)

タヒバリ属 (*Anthus*)

229. ビンズイ *Anthus hodgsoni*

旧北区中東部と東洋区の一部に繁殖し、冬季インド、東南アジアに渡る。わが国では北海道、本州、四国の山地の林縁や岩地などに繁殖し、冬季本州以南の海岸、平野などの針葉樹の林に漂行する。タヒバリと比べて乾

燥した所を好む。県下各地に普通に観察される。(R)

230. タヒバリ *Anthus spinoletta*

全北区に繁殖。全国に冬鳥として渡来し越冬する。県下各地の水田、畑地に普通で岩礁海岸、砂浜海岸にも出るが森林には入らない。

近似種ムネアカタヒバリ *A. cerinces* は北部旧北区の北緯74度と64度の範囲で繁殖し、南日本(琉球諸島、奄美、九州)を主越冬地とする。(W)

42. サンショウクイ科

(CAMPEPHAGIDÆ)

サンショウクイ属 (*Pericrocotus*)

231. サンショウクイ *Pericrocotus roseus*

東旧北区東部と東洋区の一部に繁殖し、北方の個体群は冬季南に渡る。わが国へは本州以南に夏鳥として渡来し、低山帯の常緑広葉樹林で繁殖し、樹上生活をする。県下各地の山地で観察されるが少ない。(S)

43. ヒヨドリ科 (PYCNONOTIDÆ)

ヒヨドリ属 (*Hypsipetes*)

232. ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*

日本列島付近の特産種で、全国の低山で繁殖する南方種。冬季温暖な低地へ漂行するが山地に残るものもある。例えば、戸塚区中野町約80羽南東方向へ渡る(1969・¹⁵/_X)。近年都会地に越夏し繁殖するようになった。例えば、東京都世田谷区瀬田(1971・¹⁴/_{VI}:巣立若鳥)、横浜市中区野毛町(1973・_{VI}:巣立若鳥)。真鶴岬では残ばんをあさるため海岸にも出る。(R)

44. モズ科 (LANIIDÆ)

モズ属 (*Lanius*)

233. チゴモズ *Lanius tigrinus*

アジア東部に繁殖。わが国へは本州に夏鳥として渡来する。県下では横浜市白楽(1966・¹⁶/_{VI})で繁殖した記録(高野伸二氏・1967)

があるが数は少ない。(S)

234. モズ *Lanius bucephalus*

アジア東部に繁殖。全国に広く分布し、平地から低山の林縁や林に繁殖し、冬季平地に漂行する。県下各地に普通。伐採地があれば森林にも入る。(R)

235. アカモズ *Lanius cristatus*

アジア中東部に繁殖。わが国では北海道、本州中部以北に夏鳥として渡来し、山地の林で繁殖する。県下では丹沢・箱根などの山地で観察される。(S)

45. レンジャク科 (BOMBYCILLIDÆ)

レンジャク属 (*Bombycilla*)

236. キレンジャク *Bombycilla garrulus*

全北区の北緯70度と55度の範囲に繁殖。わが国へは北海道以南に冬鳥として渡来するが、主に北海道と東日本に多い。渡来数は年により不規則。低山帯以下の林にすみ、市街地にも、出現する。箱根 (田代道弥氏 1969) からの記録がある。(W)

237. ヒレンジャク *Bombycilla japonica*

アジア東部の狭い地域に繁殖。北海道以南に秋季冬鳥として渡来し、低山帯以下の林に生息するが、主に西日本に多い。渡来数は年により不規則。箱根 (田代道弥氏 1969) からの記録がある。(W)

46. カワガラス科 (CINCLIDÆ)

カワガラス属 (*Cinclus*)

238. カワガラス *Cinclus pallasii*

旧北区極東部と東洋区東部に繁殖。全国の山地溪流に留鳥として生息し、冬季もあまり大きな移動はしない。丹沢・箱根などの山地溪流に普通に観察される。(R)

47. ミソサザイ科 (TROGLODYTIDÆ)

ミソサザイ属 (*Troglodytes*)

239. ミソサザイ *Troglodytes troglodytes*

全北区と東洋区の一部の北緯70度と24度の範囲に繁殖。全国の山地の溪流沿いの薄暗い

林に繁殖し冬季それ以下の低山、山麓に漂行し越冬する。丹沢・箱根などの山地で観察される。(R)

48. イワヒバリ科 (PRUNELLIDÆ)

イワヒバリ属 (*Prunella*)

240. イワヒバリ *Prunella collaris*

旧北区の北緯54度と24度の範囲に繁殖。わが国では本州中部の高山で繁殖し、冬季は標高の低い山地に越冬する。県下では丹沢から記録されている (柴田敏隆氏 1964)。(W)

241. カヤクグリ *Prunella rubida*

日本列島に固有。亜高山部の針葉樹林や高山のハイマツ帯に繁殖し、冬季低山へ漂行し越冬する。県下では丹沢・箱根などの山地で観察される冬鳥である。(W)

49. ヒタキ科 (MUSCICAPIDÆ)

a. ツグミ亜科 (TURDINÆ)

コマドリ属 (*Erithacus*)

242. コマドリ *Erithacus akahige*

日本列島周辺に固有。九州以北、伊豆七島屋久島に夏鳥として渡来し、亜高山帯以下の深い森林に繁殖する。冬季中国南部に渡るものもある。丹沢・箱根などの山地で観察される。(S)

243. ノゴマ *Erithacus coliope*

アジアの中北部の亜寒帯針葉樹林で繁殖。わが国では北海道に繁殖し、本州以南では旅鳥として通過する。県下では田代道弥氏 (1969) の目録にあるのみ。(Tr)

244. コルリ *Erithacus cyane*

(pl. 13. fig. 1)

アジア東部に繁殖し、東南アジアに越冬する。わが国へは、本州、北海道に夏鳥として渡来し、落葉広葉樹林の叢に繁殖する。県下では丹沢・箱根などの山地で観察される。(S)

245. ルリビタキ *Erithacus cyanurus*

アジア東南部に繁殖。わが国では、本州中部以北の亜高山針葉樹林に限り繁殖し、冬季本州中部以南の低地の林に漂行して越冬す

る。県下では丹沢・箱根などの山地で観察される。(R)

ジョウビタキ属 (*Phoenicurus*)

246. ジョウビタキ *Phoenicurus aureus*

旧北区東北部に繁殖。わが国には冬鳥（北海道では旅鳥）としてほぼ全国に渡来する。平地から低山の林縁に単独で生活する。県下各地に普通で海岸でみることもある。(W)

ノビタキ属 (*Saxicola*)

247. ノビタキ *Saxicola torquata*

旧北区と東洋区の一部、北緯70度と南緯35度の広い範囲に繁殖。わが国へは本州中部以北の乾燥した高地草原、北海道の平地草原に繁殖。県下では渡りの際、海岸、河口の草原にみられる。酒匂川河口1羽(1968・¹¹/R)、毘沙門1羽(1973・²⁵/R)、相模川河口3羽(1973・³⁰/R:浜口哲一氏観察)など。(St)

イソヒヨドリ属 (*Monticola*)

248. イソヒヨドリ *Monticola solitarius*

中国・中東部から、中近東、ヨーロッパ南部アフリカ北部にかけて帯状に分布。わが国では全国の海岸の岩地に繁殖するが、北部日本のものは冬季温暖な地方に漂行するものもある。県下各地の岩礁海岸に普通で、内陸でみかけることもある。(R)

ツグミ属 (*Turdus*)

249. マミジロ *Turdus sibiricus*

旧北区中・東部の北緯69度と35度の範囲に繁殖し、インド、東南アジアに越冬する。わが国へは夏鳥として渡来し、本州中部以北の落葉広葉樹林で繁殖する。県下では丹沢・箱根などの山地で観察される。(S)

250. トラツグミ *Turdus dauma*

旧北区中・東部、東洋区、オセアニア区に繁殖。わが国では本州以北の低山帯から亜高山までの落葉広葉樹林で繁殖し、本州中部以南の平地や低山の薄暗い林に越冬する。県下各地に普通。(R)

251. クロツグミ *Turdus cardis*

アジア東部に繁殖。わが国へは夏鳥として渡来し、中国南部、インドシナで越冬する。

四国以北の低山帯落葉広葉樹林で繁殖する。県下では丹沢・箱根などの山地で観察される。(S)

252. アカハラ *Turdus chrysolaus*

(pl. 13. fig. 2)

日本列島周辺に特産で、本州中部以北の低山帯から亜高山帯下部の落葉広葉樹林で繁殖し、冬季は低地に漂行し、薄暗い林を好む。県下各地に普通。(R)

253. シロハラ *Turdus pallidus*

旧北区東北部の亜寒帯林に繁殖。わが国へは本州以南に冬鳥（北海道では旅鳥）として渡来し、低山帯以下の林に単独で生活する。県下各地で観察される。(W)

254. マミチャジナイ *Turdus obscurus*

旧北区中・東部の主に北緯69度と45度の範囲に繁殖し、中国南部、東南アジアなどに越冬する。わが国へは主に秋に渡来する旅鳥で、山地や平地の林に生息する。県下では、丹沢・箱根などの山地で観察される。(Tr)

255. ツグミ *Turdus naumanni*

旧北区中・東部の北緯71度と52度の範囲に繁殖。わが国へは秋に大群で渡来する。県下各地の山地、特に開けた農耕地などに普通で、海岸にも出るが、越冬地では、大きな群れはつukらない。(W)

b. ウグイス亜科 (SYLVIINÆ)

ウグイス属 (*Cettia*)

256. ヤブサメ *Cettia squameiceps*

アジア極東部の狭い範囲に繁殖し、東南アジアに渡り越冬する。わが国では四国以北に夏鳥として渡来し、沢沿いの叢林に繁殖するが目立たない。県下各地の山地に普通。(S)

257. ウグイス *Cettia diphone*

アジア極東部に繁殖し、中国南部、東南アジアに渡る。わが国では低山から高山までの密生したやぶ地に広く分布する。冬季平地に漂行し、市街地にもよくみられる。県下各地に普通。(R)

オオセッカ属 (*Megalurus*)

258. オオセッカ *Megalurus priyeri*

中国東部に少数が分布する他、わが国では青森県と宮城県で繁殖が確認されただけの珍鳥。冬季関東、東海地方の温暖な地方に漂行するがごくまれである。県下からは横浜（1883）からの古い記録があるのみ。（W?）

センニュウ属 (*Locustella*)

259. シマセンニュウ *Locustella ochotensis*

極東アジアの東北部の沿海地方に繁殖し、東南アジアに渡る。わが国では北海道の平地に繁殖する他、伊豆七島、本州には局所的に飛石的に分布し繁殖する。県下では渡りのとき通過するだけと思われる。横須賀市久里浜雌1羽（1962・⁸/_X：柴田敏隆氏）、鎌倉市玉縄1羽（1969・²⁷/_K：柴田敏隆氏）の採集記録2例がある。（Tr）

260. マキノセンニュウ

Locustella lenceolata

旧北区中央部と東部の北緯63度と39度の範囲に繁殖し、南アジアに越冬する。わが国では北海道と本州中部の山地に少数が繁殖し、本州以西では旅鳥である。県下からは1例（“Kanagawa” 日本鳥類目録改訂4版 1958）あるのみ。（Tr）

コヨシキリ属 (*Acrocephalus*)

261. コヨシキリ *Acrocephalus bistrigiceps*

アジア東北部で繁殖し、冬季東南アジア方面に渡る。主に本州中部以北の山地草原に繁殖する。県下では酒匂川河口（杉崎一雄氏 1968）や箱根（田代道弥氏 1969）から記録されている。（S）

262. オオヨシキリ

Acrocephalus arundinaceus

旧北区の北緯60度と26度の範囲に繁殖し、冬季南アフリカや南インドに渡る。わが国には全国に夏鳥として渡来し水辺の草原に多い。鎌倉市深沢（1968・¹⁷/_V）、酒匂川河口（1968・³/_{VI}）、鶴巻温泉（1973・⁴/_{VI}）、川崎市登戸多摩川（1973・¹³/_{III}）など。（S）

ムシクイ属 (*Phylloscopus*)

263. メボソムシクイ

Phylloscopus borealis

旧北区と新北区北西部に繁殖。わが国では四国以北の亜高山針葉樹林に限り繁殖し、春と秋の渡りの季節には平地の林や市街地にも出現する。県下では丹沢・箱根などの山地で観察される。（S）

264. エゾムシクイ *Phylloscopus tenellipes*

日本を中心に、アジア極東部の狭い範囲に繁殖し、東南アジアに越冬する。わが国へは、本州中部以北に夏鳥として渡来し、亜高山帯下部の針葉樹林や落葉広葉樹林に繁殖する。県下では、丹沢で観察される。（S）

265. センダイムシクイ

Phylloscopus occipitalis

アジア東部に繁殖。わが国では、九州以北の低山帯落葉広葉樹林に繁殖し、繁殖期はムシクイ、エゾムシクイ、センダイムシクイの順に繁殖環境が低地へ移りほぼ住み分ける。渡りの季節には市街地にも出現する。県下各地の山地に普通。（S）

キクイタダキ属 (*Regulus*)

266. キクイタダキ *Regulus regulus*

旧北区の北緯70度と25度の範囲に繁殖。わが国では本州中部以北の亜高山針葉樹林に繁殖し、冬季それ以下の針葉林に漂行する。他に北方から冬鳥としても多数渡来し、越冬する。丹沢鍋割沢出合いで2羽（1968・²/_{III}）を観察した。（W）

セッカ属 (*Cisticola*)

267. セッカ *Cisticola juncidis*

旧北区、エチオピア区、東洋区、オセアニア区の北緯45度と南緯35度の広い範囲に繁殖。わが国では、本州以南の草原、草原、高原などに繁殖し、北方及び高地のものは、冬季、温暖な地方に漂行する。県下各地のイネ科の草の茂った草原に普通で、越冬するものもある。（R）

c. ヒタキ亜科 (*MUSCICAPINÆ*)

ヒタキ属 (*Muscicapa*)

268. キビタキ *Muscicapa narcissina*

アジア東部に繁殖し、北方のものは、冬季東南アジアに渡る。わが国へはほぼ全国の低山帯に夏鳥として渡来し、落葉広葉樹林で繁殖する。渡りの季節には市街地でもみられる。例えば、大和市南林間雌1羽(1972・²⁸/K)。県下各地の山地で観察される。(S)

269. ムギマキ *Muscicapa mugimaki*

旧北区東部の針葉樹林に繁殖し、東南アジアに越冬する。わが国には春と秋の渡りの時期にみられる旅鳥であるが、多くはない。県下からは鶴見区三ツ池(1942・²¹/X:高山一彦氏観察)の記録がある。(Tr)

270. オオルリ *Muscicapa cyanomelana*

アジア東部に繁殖し、東南アジアに渡り越冬する。ほぼ全国に夏鳥として渡来し、低山帯の沢沿いの林に繁殖する。丹沢・箱根などの山地で普通に観察される。(S)

271. サメビタキ *Muscicapa sibirica*

アジア東北部と南部に繁殖し、北方の個体群は冬季東南アジアに渡る。わが国へは夏鳥として渡来し、本州中部以北の亜高山帯針葉樹林に繁殖する。繁殖環境はコサメビタキよりも高い。渡りの時は低地にも出現する。西丹沢ゴウラ沢出合いで2羽(1969・²⁰/K)を観察した。(Tr)

272. エゾビタキ *Muscicapa griseisticta*
(pl. 14. fig. 1)

アジア東北部で繁殖し東南部に越冬する。わが国でも繁殖するものが少数いるが、多くは秋の渡りの季節に出現する旅鳥である。県下各地の平地から低山帯の林で観察されるが、単独でいることが多い。相模川河口で1羽(1973・²⁴/K)を観察した。(Tr)

273. コサメビタキ *Muscicapa latirostris*

アジア東部と南部に繁殖し、冬季中国、東南アジアに渡る。わが国では標高1,800m以下の明るい林に繁殖し、渡りの季節には平地の林でもみられる。県下各地の山地で観察される。(S)

d. サンコウチヨウ亜科

(MONARCHINÆ)

サンコウチヨウ属 (*Terpsiphone*)

274. サンコウチヨウ

Terpsiphone atrocaudata

台湾、フィリピン北部で繁殖する他、本州北部以南に夏鳥として渡来し、低山帯の常緑広葉樹林で繁殖する。冬季東南アジアに渡り越冬する。県下各地に普通。(S)

50. シジュウカラ科 (PARIDÆ)

シジュウカラ属 (*Parus*)

275. コガラ *Parus montanus*

旧北区の北緯70度と34度の範囲に繁殖。わが国では北海道から九州までの落葉広葉樹林から亜高山針葉樹林に繁殖し、冬季それ以下の山地の林に漂行するが、平地でみかけることは少ない。県下では丹沢・箱根などの山地に普通。(R)

276. ヒガラ *Parus ater*

(pl. 14. fig. 2)

旧北区と東洋区の一部の北緯67度と24度の範囲に繁殖。針広混交樹林をほぼ全国の低山帯から亜高山帯の針広混交樹林に繁殖し、冬季それ以下の山地の林に漂行するが、平地でみかけることは少ない。県下では丹沢・箱根などの山地に普通。(R)

277. ヤマガラ *Parus varius*

日本列島周辺に固有。亜高山帯以下の常緑広葉樹を好み暖地に多い。冬季も大きな移動はしない。県下各地の山地に普通。(R)

278. シジュウカラ *Parus major*

旧北区と東洋区の北緯68度と南緯10度の範囲に繁殖。全国の亜高山帯以下の落葉広葉樹林に普通に繁殖する。県下各地に普通。(R)

エナガ属 (*Aegithalos*)

279. エナガ *Aegithalos caudatus*

旧北区の北緯70度(アジアでは61度)と27度の範囲に繁殖。ほぼ全国の亜高山帯以下の広葉樹林や針広混交林に繁殖し、冬季はそれ以下の山地の林に漂行する。県下各地に普通。(R)

51. ゴジュウカラ科 (SITTIDÆ)

ゴジュウカラ属 (*Sitta*)

280. ゴジュウカラ *Sitta europaea*

旧北区と東洋区の北緯66度と10度の範囲に繁殖。わが国では、全国の山地の落葉広葉樹林に繁殖し、冬季それ以下の山地の林に移動する。本州中部以北では平地でみることは少ない。県下では丹沢・箱根などの山地に普通で山小屋のゴミ捨て場でも採餌する。(R)

52. キバシリ科 (CERTHIIDÆ)

キバシリ属 (*Certhia*)

281. キバシリ *Certhia familiaris*

全北区の北緯70度と15度の範囲に繁殖。わが国では、四国以北の亜高山針葉樹林に繁殖。冬季それ以下の山地の林に漂行するが、平地でみられることは少なく数も多くはない。県下では、丹沢と箱根で観察されている。(W?)

53. メジロ科 (ZOSTEROPIDÆ)

メジロ属 (*Zosterops*)

282. メジロ *Zosterops palpebrosa*

アジア東南部に繁殖。全国の平地から山地の常緑広葉樹林に繁殖し、冬季北方及び山地のものは温暖な地方に漂行する。県下各地に普通に観察される。(R)

54. ホオジロ科 (EMBERIZIDÆ)

ホオジロ属 (*Emberiza*)

283. ホオジロ *Emberiza cioides*

アジア中・東部の中緯度に繁殖。わが国ではほとんど全国に分布し平地から山地の明るい林縁や低木林などに繁殖する。県下各地に普通で森林伐採地にも侵入する。(R)

284. コジュリン *Emberiza yessoensis*

中国北部、朝鮮、日本などに繁殖し、中国東部に越冬する。わが国では本州中部以北の高原で繁殖する他、関東地方の一部の平野でも繁殖する。温暖な地方の草原や葦原で越冬するが少ない。箱根須雲川3羽(1952・22/v)

：田代道弥氏) 酒匂川河口夏羽雄1羽(1957・2/8：杉崎一雄氏)が記録されている。(W)

285. ホオアカ *Emberiza fucata*

(pl. 14. fig. 3)

アジア・中東部に繁殖。わが国では九州の一部、本州中部以北、北浦道の草原に繁殖し、冬季、温暖な地方の平地の耕地、水田刈跡などに漂行する。鎌倉市深沢雄1羽(1968・30/iv)、酒匂川河口囀る雄1羽(1968・4/vii)など。(R)

286. カシラダカ *Emberiza rustica*

旧北区北部の北緯69度と48度の範囲に繁殖。わが国には全国に冬鳥として渡来し、低山の落葉樹林、河原の葦原、水田刈跡など明るい場所に多い。県下各地に普通。(W)

287. ミヤマホオジロ *Emberiza elegans*

旧北区東部の亜寒帯林に繁殖。対島では繁殖するものもあるが、わが国には多くは冬鳥として渡来し、本州中部以西に多く、東日本には少ない。

県下への渡来数は少なく、近年では三浦半島久村雄1羽、雌1羽(1963・12/Ⅲ 野鳥の会横浜支・報 No. 44)、箱根明神岳雄1羽(1965・7/Ⅲ 野鳥の会横浜支・報 No. 54)の観察例がある。(W)

288. シマアオジ *Emberiza aureola*

旧北区北部の北緯68度と42度の範囲に繁殖し、大陸沿いに熱帯アジアに渡り越冬する。わが国では、北海道に夏鳥であるが本州以南ではほとんど見られない。県下では迷鳥で横浜付近の古い記録があるのみ。(St)

289. ノジコ *Emberiza sulphurata*

日本に固有で、冬季南日本、台湾、中国南部、フィリピン北部などに越冬する。本州中部の山地の草原に繁殖するが局所的で少ない。県下からは、籾山徳太郎氏(1917)、田代道弥氏(1969)の目録に記録がある。(R)

290. アオジ *Emberiza spodocephala*

東旧北区東部の亜寒帯から温帯にかけて、繁殖し、中国南部、インドシナ北部、インド北部などに渡って越冬する。わが国では、

本州中部以北の山地の明るい林に繁殖し、本州中部以西の低地で越冬する。越冬地では、かなりうす暗い茂みを好み明るに場所には出ない。県下各地に普通。(R)

291. クロジ *Emberiza variabilis*
(pl. 15. fig. 1)

アジア東北部に繁殖。わが国では、本州以北の亜高山の林で繁殖し、冬季低山帯またはそれ以下の薄暗い林に越冬する。鎌倉市佐助で雄1羽(1973・27/Ⅲ)、同雌1羽(28/Ⅲ)を観察した。(W)

292. オオジュリン *Emberiza schoeniclus*
北東部を除く旧北区の北緯71度と34度の範囲に繁殖。わが国では北海道に繁殖し、本州以南に越冬する。県下では、河口、海岸、埋立地などの草原にみられる。相模川河口約8羽(1969・10/Ⅲ)、磯子中原数羽(1969・28/Ⅲ)三浦半島黒崎の鼻1羽(1969・24/Ⅲ)、磯子中原3羽(1969・7/Ⅳ)、酒匂川河口数羽(1970・30/Ⅲ)など。(W)

55. アトリ科 (FRINGILLIDÆ)

アトリ属 (*Fringilla*)

293. アトリ *Fringilla montifringilla*

旧北区北部の北緯70度と50度の範囲に繁殖。わが国では冬鳥として、低地から低山帯の林に群れをなして渡来するが、本州北部、日本海側に普通。丹沢・箱根などの山地の落葉広葉樹林や農耕地で観察されるが、県下では多くはない。(W)

ハギマシコ属 (*Leurosticte*)

294. ハギマシコ *Leurosticte arctoa*
(pl. 15. fig. 2)

東旧北区中央部と東部の一部、新北区北西部に繁殖。全国に冬鳥として渡来するが西日本には少ない。北海道では繁殖している可能性がある。丹沢檜洞丸ヒコサンヒメシヤの実を食べる20数羽(1967・27/Ⅳ：新井一政氏観察)、塔ヶ岳で約65羽(1968・21/Ⅳ)、札掛で約25羽(1968・5/Ⅰ)を観察した。(W)

ヒワ属 (*Carduelis*)

295. カワラヒワ *Carduelis sinica*

アジア東部に繁殖。全国の平地から低山の明るい林で繁殖する他、冬季北方の個体群が渡来する。公園など森林があれば都会地でも繁殖する。例えば、横浜市中区一帯(1968・23/Ⅳ)。県下各地の低山平野に普通の留鳥で海岸にも出て採餌する。(R)

296. マヒワ *Carduelis spinus*

旧北区西部と中央部の北緯64度と27度の範囲に繁殖。わが国では北海道と本州の山地の針葉樹林で局所的に繁殖するものがあるが、多くは冬鳥として渡来し、主に本州以南の山地の落葉広葉樹林に越冬する。丹沢大倉尾根約12羽(1968・2/Ⅳ) 丹沢ゴウラ沢出会ミヤマヤシヤブシの実を食べる約25羽の群れ(1968・21/Ⅳ)、塔ヶ岳約55羽(1968・1/Ⅳ)、札掛15羽(1968・5/Ⅰ)など。(W)

イスカ属 (*Loxia*)

297. イスカ *Loxia curvirostra*

全北区、東洋区、新熱帯区北西部の北緯68度と12度の範囲に繁殖。わが国では本州、北海道(?)に少数が繁殖するが、多くは冬鳥として渡来し、低山帯の針葉樹林に越冬する。箱根(田代道弥氏 1969)の記録がある。(W)

298. ナキイスカ *Loxia leucoptera*

全北区北部の北緯68度と45度の範囲に繁殖。わが国には冬鳥としてイスカの群れに混じって渡来するが少ない。足柄上郡三保雄1羽(1953・12/Ⅰ)、同雌1羽(1955・28/Ⅰ：清棲幸保氏 1965)の記録がある。(W)

ベニマシコ属 (*Uragus*)

299. ベニマシコ *Uragus sibiricus*

旧北区中部東南部に繁殖。わが国では、北海道に夏鳥で、青森県での繁殖記録もあるが、本州以南に多くは冬鳥として渡来し、低山帯以下のブッシュに生活し森林には入らない。丹沢の札掛一宮ヶ瀬で雄2羽、雌1羽(1968・6/Ⅰ)、丹沢長者舎で雄1羽(1970・23/Ⅲ)を観察した。(W)

ウソ属 (*Pyrrhula*)

300. ウソ *Pyrrhula pyrrhula*

旧北部の北部、西部の北緯70度と30度の範囲に繁殖。わが国では亜高山帯針葉樹林で繁殖し、冬季低山の落葉樹林に漂行する。丹沢札掛で雌1羽(1968・⁶/_I)箱根芦ノ湖畔でマメザクラとウツギの実の新芽を食べる5羽(1970・¹²/_{III})を観察した。(W)

イカル属 (*Eophona*)

301. イカル *Eophona personata*

東旧北区東部に繁殖。わが国では本州北部北海道では夏鳥、本州中部では主に留鳥であるが冬季平地へ下る。西日本では主に冬鳥である。低山帯の落葉広葉樹林に多く生息する。丹沢鍋割沢出会い一塔ヶ岳タカオモミジの実を食べる7~9羽(1968・²/_{XII})、箱根湖尻ガマズミの実を食べる25羽(1970・¹²/_{III})清川村別所、囀る雄1羽(1972・²⁸/_{VI})など。(R)

シメ属 (*Coccothraustes*)

302. シメ *Coccothraustes coccothraustes*

旧北区の北緯60度と30度の範囲に繁殖。わが国では北海道、本州で局所的に繁殖する。多くは冬鳥として渡来し、広葉樹林に多く生息するが、例えば、野毛山公園など都会地でも樹木の多い所にもみられる。県下各地に普通であるが多くは単独または2羽でいることが多い。(W)

56. カエデチョウ科 (ESTRIDIDÆ)

カエデチョウ属 (*Estrilda*)

303. ベニスズメ *Estrilda amandava*
(pl. 16. fig. 1)

東南アジアが原産地。飼鳥が逃げて野生化したもので、温暖な地方の都市周辺の草原で自然繁殖している。酒匂川河口7羽(1968・¹¹/_R)、横浜市磯子区中原20数羽(1968・²⁸/_X)川崎市登戸多摩川2羽(1973・⁸/_{VIII})、磯子区中原10数羽(1974・¹⁶/_I)など。(R)

キンパラ属 (*Lonchura*)

304. プンチョウ *Lonchura oryzivora*
(pl. 16. fig. 2)

世界各地で野生化しているが、原産地は東

南アジア、インド。飼鳥が逃げて野生化したもので、本州中部以西の温暖な太平洋側に繁殖している。横浜市戸塚区俣野町19羽(1973・³⁰/_I)、小田原市栢山2羽(1973・²³/_V)など。(R)

57. ハタオリドリ科 (PLOCEIDÆ)

スズメ属 (*Passer*)

305. ニュウナイスズメ *Passer rutilans*

東旧北区極東部と東洋区北部に繁殖。わが国では本州中北部の高原、北海道に繁殖。主に樹洞に営巣するが、スズメの進入している所では人家にも営巣する。中部以西に冬鳥として渡る。県下では、靱山徳太郎氏(1917)の他、箱根(田代道弥氏 1969)からの記録があるが少ない。(W)

306. スズメ *Passer montanus*

旧北区、東洋区の北緯71度と南緯10度の範囲に繁殖。北方の個体群は冬季南へ渡る。

わが国には日本列島に広く留鳥として分布し、特に人家付近に多い。樹洞に営巣するものもいるが、多くは人家など人為環境に営巣する。コシアカツバメやイワツバメの巣を占領することもある。森林に入ることはないが、開けた人為環境があれば高原山地や海岸にも進出する。県下各地の低地に極めて普通。(R)

58. ムクドリ科 (STURNIDÆ)

ムクドリ属 (*Sturnus*)

307. コムクドリ *Sturnus sturnus*

アジア東部と東南部に繁殖し、ビルマ、マレー半島などに越冬する。わが国では、本州中部以北、北海道に繁殖し、以西では旅鳥である。酒匂川河口で10数羽(1957・¹⁴/_{VIII}~¹⁹/_{VIII}: 杉崎一雄氏)が観察されている。(S)

308. ムクドリ *Sturnus cineraceus*

アジア東部に繁殖し、北方の個体群は渡りをする。全国の農耕地、村落、市街地に極めて普通で、特に水田地帯を好む。県下各地に普通の留鳥で、横浜市内ではビルの通気孔な

どにも営巣している。(R)

59. カラス科 (CORVIDÆ)

カケス属 (*Garrulus*)

309. カケス *Garrulus glandarius*

旧北区と東洋区北部の北緯65度と15度の範囲に繁殖。全国の山地の森林で繁殖し、冬季は温暖な地方へ移動する。県下各地の山地に普通で、冬季は平地の林でも観察される。(R)

オナガ属 (*Cyanopica*)

310. オナガ *Cyanopica cyana*

分布の中心は極東アジアで、イベリア半島に隔離分布する。日本における分布は局所的で、九州佐賀地方では1958年を境に姿を消し、兵庫県では近年著しく減少し、逆に関東、東北、北陸地方に拡がりつつある。県下でも1965年を境に小田原以西に拡がり、三浦半島(柴田敏隆氏 1971)では1960年頃を境に南下し、城ヶ島まで達している。(R)

ホシガラス属 (*Nucifraga*)

311. ホシガラス *Nucifraga caryocatactes* (pl. 16. fig. 3)

旧北区の北緯67度と24度の範囲に繁殖。わが国では全国の亜高山針葉樹林に限り繁殖するが本州中部以北に多い。冬季低地の森林に漂行するが、平地でみることは少ない。県下

からは、鎌倉市天園5羽(1954・⁵/_N:柴田敏隆氏 1956)、相模湖町景信山2羽(1973・¹⁴/_N:大場達之氏観察)から記録されている。(W)

カラス属 (*Corvus*)

312. コクマルガラス *Corvus monedula*

アフリカ北部、ヨーロッパ、アジア中・西部に繁殖。わが国にはまれに渡来するが日本海側に多い。横浜付近からの古い記録1例があるのみ。(St)

313. ミヤマガラス *Corvus frugilegus*

旧北区の北緯63度と27度の範囲に繁殖。わが国には九州の北西部地方に冬鳥として渡来するが、その他の地方ではまれである。県下では横浜からの古い記録があるのみ。(St)

314. ハシボソガラス *Corvus corone*

旧北区と東洋区の一部、北緯72度と24度の範囲に繁殖し、北方の個体群は冬季南に渡る。村落、耕地、海岸などの低地から低山帯の開けた場所に広く分布する。県下各地に普通。(R)

315. ハシブトガラス

Corvus macrorhynchos

アジア東南部に繁殖。低地から山地まで広く分布する。県下では海岸から丹沢の山頂まで広く分布し、都会にも多い。(R)

— 主 要 文 献 —

黒田長禮 1913 羽田及び鶴見付近産鳥類目録 著者自刊

松平頼孝 1915 神奈川県下の鳥類特集 鳥(1) 2 : 76—80

榎山徳太郎 1917 相模中郡産鳥類目録 鳥1(4) : 29—36

黒田長禮 1918 鷗千鳥類図説、裳華房発行

黒田長禮 1922 オホトウゾクカモメとサケイに就て 鳥7 : 93—95

黒田長禮 1924 京都帝国大学理学部所蔵 鳥類標本目録 鳥4 (16・17) : 68—80

松平頼孝 1924 相模湾に於ける各種の水鳥 鳥去来習性に就て 鳥 : 190—194

松平頼孝 1925 相模湾に於ける海燕の採集 鳥

4(9) : 262—265

山階芳麿 1926 箱根に於ける夏季の鳥界 鳥22 : 144—148

松平頼孝 1939 相模湾に来る二種のトウゾクカモメ 野鳥6(1) : 135—138

中西梧堂 1951 箱根の鳥 野鳥16(149) : 119—121

Dement'ev et al. 1951—54 Birds of the Soviet Union Vol. 1—VI Israel Program for Scientific Translations.

黒田長久 1952 オジロトウネンとアメリカヅラシギの標本及び考察 鳥13(61) : 21—24

田代道弥 1953 ハシブトウミガラスを神奈川県真鶴岬に得る 鳥13(62) : 49—50

- 田代道弥 箱根芦ノ湖に於ける冬の鴨類 野鳥 159 : 6—8
- 田代道弥 1955 箱根山の鳥類追加数種 野鳥 20 (171) : 198—199
- 三島冬嗣 1956 日本及び周辺の鳥類の新分布地
その他 鳥 14 (67) : 17—27
- 柴田敏隆 1956 三浦半島でホシガラスを見る
野鳥 177 : 176
- 田代道弥 1956 箱根の鳥類 小田原市郷土文化館
- 三島冬嗣 1957 ミヤコドリの記録 鳥獣集報 16 (1) : 120
- 杉崎一雄 1958 神奈川酒匂川の鳥類 (1) シギチ
ドリ類 野鳥 192 : 5—14
- 日本鳥学会 1958 日本鳥類目録 (改訂四版) 日本鳥学会
- 靱山徳太郎 1959 日本産海燕類目録・附、属種の索引 鳥獣集報 17 (1) : 7—30
- 杉崎一雄 1959 酒匂川のカラコトコヒバリについて 鳥 15 (74) : 18—20
- 柴田敏隆・金田平 1959 域ヶ島のクロサギとその繁殖について 横須賀市博研報 4 : 43—47
- 柴田敏隆 1960 三浦半島で記録された鳥四種 横須賀市博研報 5 : 40—43
- 黒田長久 1962 横浜に迷行したシロハラミズナギドリ 山階鳥研報 3 (8) : 225—226
- 日本野鳥の会 1963 日本産鳥類目録 野鳥 222 : 1—68
- 柴田敏隆・川島清 1963 三浦半島に飛来したオオチドリの観察 横須賀市博研報 8 : 103—110
- 柴田敏隆 1964 丹沢山塊の鳥類 丹沢・大山学術調査報告書 349—355 神奈川県
- 清棲幸保 1965 日本鳥類大図鑑 I—III 講談社
- 小林桂助 1965 原色日本鳥類図鑑 (増補改訂版) 保育社
- King, W. B. 1967 Preliminary Smithsonian Identification Manual; Seabirds of the Tropical Pacific Ocean U. S. Nat. Mus. Smithsonian Inst. Washington.
- 柴田敏隆 1968 三浦半島で記録されたシマクイナ *Porzana noveboracensis exquisita* Swinhone. 横須賀市博研報 14 : 103—104
- 黒田長久 1968 神奈川県溝ノ口丘陵の冬の鳥類 (センサス分析の1例) 山階鳥研報 5 (4) : 337—350
- 杉崎一雄 1968 神奈川県酒匂川の鳥類 (2) 雑録集 野鳥 256 : 22—23
- 田代道弥 1969 神奈川県西部地方産鳥獣類目録 神奈川県足柄下地方事務所
- 黒田長禮 1968~'69 日本産ガン・カモ科鳥類の渡来 地表 I—IV 鳥 18 (85)、19 (89)~19 (87)
- 高野伸二 1969 神奈川県下の珍鳥二つ 野鳥 34 (9) : 13
- 後藤俊二・矢田新平 1969 茅ヶ崎にヘラシギ渡来 野鳥 279 : 418—419
- 有田一郎 1970 神奈川県津久井周辺の鳥 野鳥 281 : 52—53
- 日本鳥学会 1971 日本鳥類目録第5版編集 中間報告 鳥 20 (89) : 209—224
- 柴田敏隆 1971 三浦半島のオナガ 横須賀市博研報 16 : 20—23
- 中村一恵 1971 神奈川県鳥類誌 I 神奈川県立博物館
- Snow, D. W. (edited) British Ornithologists Union. Union 1971 The Status of Birds in Britain and Ireland. Blackwell.
- 黒田長禮 1972 日本産ガンカモ科 鳥類の渡来 地表 追加 I 鳥 21 (91, 92) : 289—299
- 中村一恵 1972 相模湾で観察された日本初記録のハシダクロハラアジサシ *Sterna nigra* L. 神奈川博研報 1 (5) : 19—23
- 中村一恵 1973 内陸に迷行した海鳥2種について 神奈川博研報 6 : 55—59
- 金田平 1973 神奈川県藤沢市にヤツガシラ野鳥 318 : 165
- 中村一恵・林公義 1973 館山湾にコグンカンドリ 野鳥 38 (3) : 49—50
- 浜口哲一 (未公表) 三浦半島二子山における繁殖期の鳥相
- 浜口哲一 (未公表) 鎌倉市源氏山における鳥類周年センサス
- 高山一彦 (未公表) 神奈川県産鳥類目録

索

引

ア

アオアシシギ	17
アオゲラ	25
アオジ	31
アオサギ	8
アオシギ	19
アオバズク	23
アオバト	22
アカアシシギ	17
アカアシミズナギドリ	6
アカエリカイツブリ	5
アカエリヒレアシシギ	19
アカオネッタイチョウ	7
アカゲラ	25
アカショウビン	24
アカツクシガモ	9
アカハジロ	11
アカハラ	28
アカモズ	27
アトリ	32
アビ	5
アホウドリ	5
アマサギ	8
アマツバメ	24
アメリカウズラシギ	16
アリスイ	24

イ

イカル	33
イカルチドリ	15
イスカ	32
イソシギ	18
イソヒヨドリ	28
イワツバメ	25
イワヒバリ	27

ウ

ウグイス	28
ウズラ	13
ウズラシギ	16

ウソ	32
ウトウ	22
ウミアイサ	11
ウミウ	7
ウミネコ	20

エ

エゾムシクイ	29
エゾビタキ	30
エトロフウミスズメ	22
エナガ	30
エリマキシギ	17

オ

オオアカゲラ	25
オオアジサシ	21
オオコノハズク	23
オオジシギ	19
オオジュリン	32
オーストンウミツバメ	6
オオセグロカモメ	20
オオセッカ	29
オオソリハシシギ	18
オオタカ	12
オオチドリ	15
オオトウゾクカモメ	20
オオハシシギ	17
オオハム	5
オオバン	14
オオミズナギドリ	6
オオメダイチドリ	15
オオヨシキリ	29
オオヨシゴイ	7
オオルリ	30
オオワシ	12
オカヨシガモ	10
オグロシギ	18
オシドリ	10

オジロトウネン	16
オジロワシ	12
オナガ	34

オナガガモ	10
オナガミズナギドリ	6
オバシギ	17

カ

カイツブリ	5
カケス	34
カシラダカ	31
カツオドリ	7
カッコウ	23
カモメ	20
カキクグリ	27
カラスバト	22
カラフトワシ	12
カリガネ	9
カルガモ	10
カワアイサ	11
カワウ	7
カワガラス	27
カワセミ	24
カワラヒワ	32
カンムリウミスズメ	22
カンムリカイツブリ	5

キ

キアシシギ	18
キクイタダキ	29
キジ	13
キジバト	22
キセキレイ	26
キバシリ	31
キビタキ	29
キョウジョシギ	16
キリアイ	17
キレンジャク	27
キンクロハジロ	11

ク

クサシギ	18
クマタカ	12
クロアシアホウドリ	6

クロアジサシ	21
クロウミツバメ	6
クロガモ	11
クロコシジロウミツバメ	6
クロサギ	8
クロジ	32
クロツグミ	28
クロトウゾクカモメ	20
クロトキ	9

ケ

ケイマフリ	21
ケリ	16

コ

コアオアシシギ	17
コアジサシ	21
コアホウドリ	5
ゴイサギ	8
コウノトリ	9
コウミスズメ	22
コオバシギ	17
コガモ	10
コガラ	30
コクマルガラス	34
コグンカンドリ	7
コゲラ	25
コサギ	8
コサメビタキ	30
コシアカツバメ	25
コシギ	19
コシジロアジサシ	21
ゴジュウカラ	31
コジュケイ	13
コジュリン	31
コチドリ	15
コチョウゲンボウ	13
コノハズク	23
コハクチョウ	9
コバシチドリ	15
コマドリ	27
コミズナギドリ	6
コミミズク	23
コムクドリ	33

コヨシキリ	29
コルリ	27

サ

サカツラガン	9
サケイ	22
ササゴイ	8
サシバ	12
サメビタキ	30
サルハマシギ	16
サンカノゴイ	7
サンコウチョウ	30
サンショウクイ	26

シ

シジュウカラ	30
シジュウカラガン	9
シノリガモ	11
シマアオジ	31
シマアジ	10
シマクイナ	14
シマセンニュウ	29
シメ	33
ジュウイチ	22
ショウドウツバメ	25
ジョウビタキ	28
シロエリオオハム	5
シロカモメ	20
シロチドリ	15
シロハラ	28
シロハラトウゾクカモメ	20
シロハラミズナギドリ	6

ス

スズガモ	11
スズメ	33

セ

セイタカシギ	19
セグロアジサシ	21
セグロカモメ	20
セグロセキレイ	26
セッカ	29
センダイムシクイ	29

ソ

ソリハシシギ	18
--------	----

タ

ダイサギ	8
ダイシャクシギ	18
ダイゼン	15
タカブシギ	18
タゲリ	16
タシギ	19
タヒバリ	26
タマシギ	14

チ

チゴモズ	26
チュウアジサシ	21
チュウサギ	8
チュウジシギ	19
チュウシャクシギ	18
チュウヒ	13
チョウゲンボウ	13

ツ

ツクシガモ	10
ツグミ	28
ツツドリ	23
ツノメドリ	22
ツバメ	25
ツバメチドリ	19
ツミ	12
ツルクイナ	14
ツルシギ	17

ト

トウゾクカモメ	20
トウネン	16
トキ	9
トビ	12
トモエガモ	10
トラツグミ	28
トラフズク	23

ナ

ナキイスカ	32
-------	----

ナミウミスズメ……………21
ナベヅル……………14

ニ

ニューナイスズメ……………33

ノ

ノゴマ……………27
ノジコ……………31
ノスリ……………12
ノビタキ……………28

ハ

ハイイロウミツバメ……………6
ハイイロチュウヒ……………13
ハイイロヒレアシシギ……………19
ハイイロミズナギドリ……………6
ハイタカ……………12
ハギマシコ……………32
ハクガン……………9
ハクセキレイ……………26
ハシグロクロハラアジサシ……………20
ハシジロアビ……………5
ハシビロガモ……………10
ハシブトガラス……………34
ハシブトウミガラス……………21
ハシボソガラス……………34
ハシボソミズナギドリ……………6
ハジロカイツブリ……………5
ハジロクロハラアジサシ……………21
ハジロコチドリ……………15
ハチクマ……………12
ハマシギ……………16
ハヤブサ……………13
ハリオアマツバメ……………24
ハリオシギ……………19
バン……………14

ヒ

ヒガラ……………30
ヒクイナ……………14
ヒシクイ……………9
ヒドリガモ……………10
ヒバリ……………25

ヒバリシギ……………16
ヒメアマツバメ……………24
ヒメウ……………7
ヒメクイナ……………14
ヒメクロウミツバメ……………6
ヒメヒバリ……………25
ヒヨドリ……………26
ヒレンジャク……………27
ビロウドキンクロ……………11
ビンズイ……………26

フ

フクロウ……………23
ブッポウソウ……………24
フユクイナ……………14
ブンチョウ……………33

ヘ

ベニスズメ……………33
ベニバト……………22
ベニマシコ……………32
ヘラサギ……………9
ヘラシギ……………17

ホ

ホオアカ……………31
ホオジロ……………31
ホオジロガモ……………11
ホオロクシギ……………18
ホシガラス……………34
ホシハジロ……………11
ホトトギス……………23

マ

マガモ……………10
マガン……………9
マキノセンニュウ……………29
マダラウミスズメ……………21
マヒワ……………32
マミジロ……………28
マミチャジナイ……………28

ミ

ミサゴ……………11

ミゾゴイ……………7
ミソサザイ……………27
ミツユビカモメ……………20
ミミカイツブリ……………5
ミヤマガラス……………34
ミヤコドリ……………14
ミヤマホオジロ……………31
ミュビシギ……………17

ム

ムギマギ……………30
ムクドリ……………33
ムナグロ……………15
ムラサキサギ……………8

メ

メジロ……………31
メダイチドリ……………15
メボソムシクイ……………29

モ

モズ……………27

ヤ

ヤツガシラ……………24
ヤブサメ……………28
ヤマガラ……………30
ヤマシギ……………18
ヤマセミ……………24
ヤマドリ……………13

ユ

ユリカモメ……………20

ヨ

ヨシガモ……………10
ヨシゴイ……………7
ヨタカ……………23

ル

ルリビタキ……………27

ワ

ワシカモメ……………20
ワシミミズク……………23



1

アカエリカイツブリ 葉山真名瀬海岸



2

ササゴイ 酒匂川河口



3

アマサギ 厚木市郊外



1

チュウサギ 鎌倉市深沢



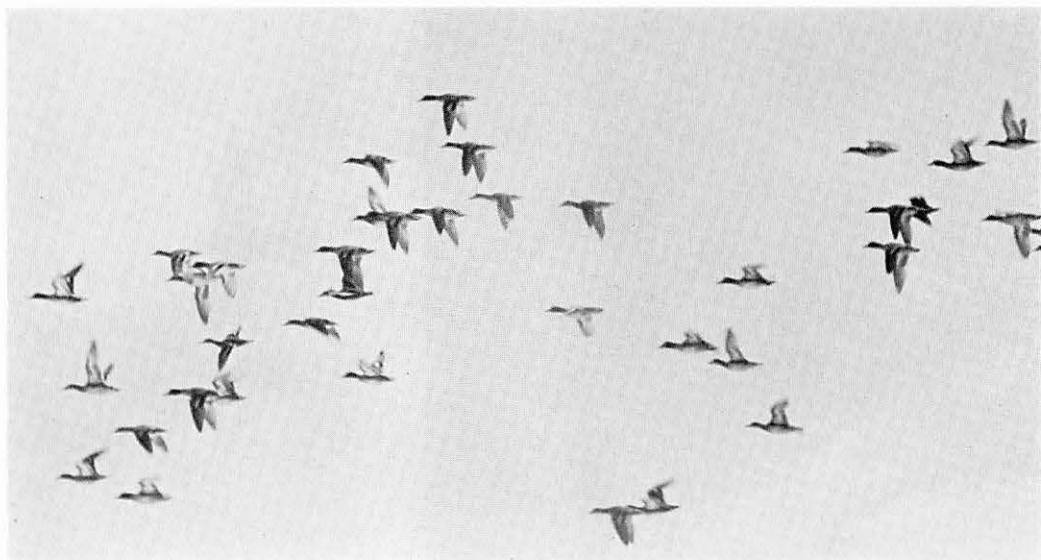
2

コサギ 三浦半島小田和湾



3

クロサギ 真鶴半島沖



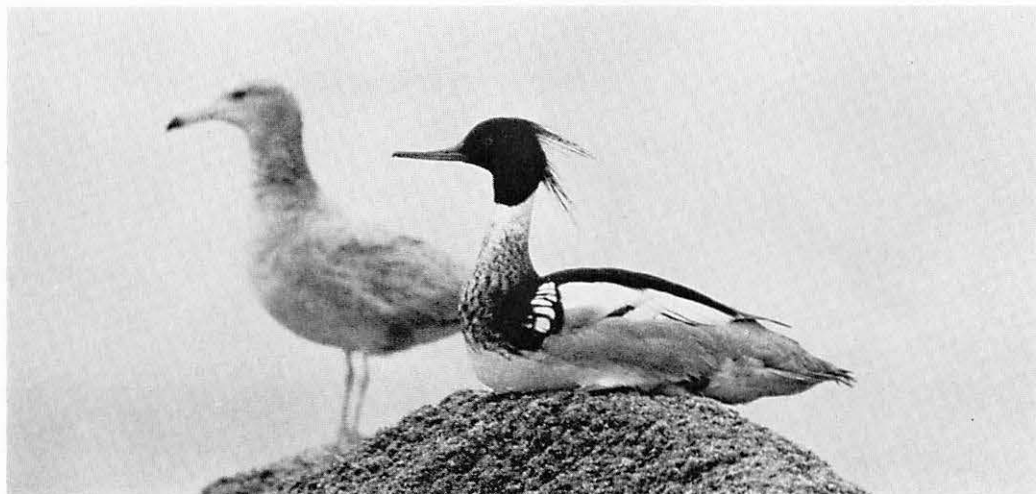
1

コガモ 横浜市磯子区埋立地



2

スズガモ 三浦半島小田和湾



3

ウミアイサ 三浦半島笠島



1

ハヤブサ 真鶴半島



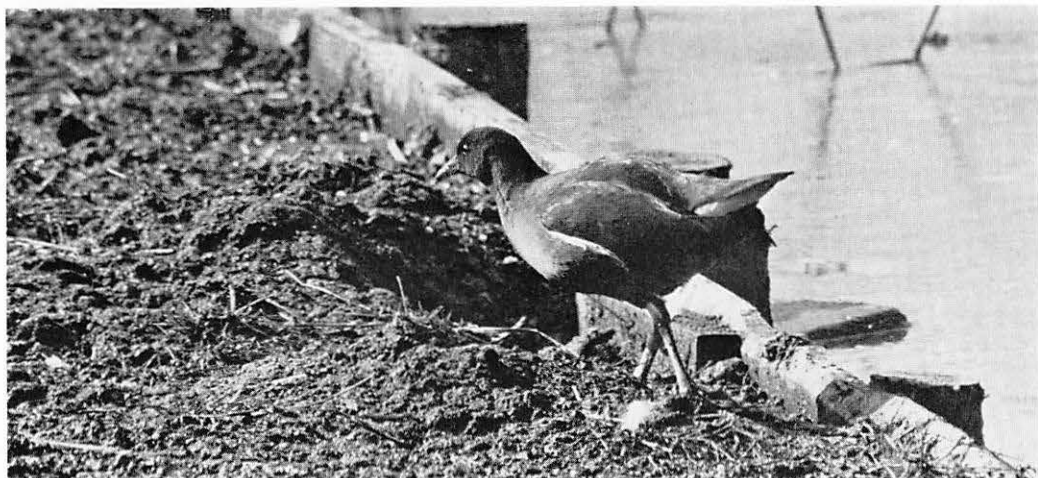
2

チョウゲンボウ 横浜市磯子区



3

キジ 箱根・湖尻



1

バン 横浜市三溪園



2

ミヤコドリ 三浦半島毘沙門



3

メダイチドリ 相模川河口



1

ムナグロ 酒匂川河口



2

ケリ 横浜市戸塚区 矢田孝氏撮影



3

キョウジョシギ 三浦半島笠島



1

トウネン 相模川河口



2

ハマシギ 酒匂川河口



3

サルハマシギ 相模川河口



1

オバシギ 相模川河口



2

ミュビシギ 相模川河口



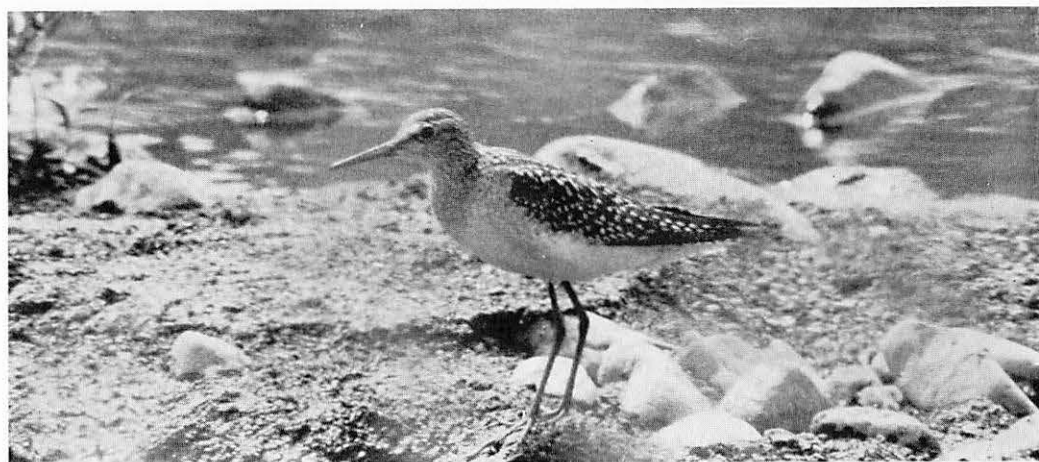
3

エリマキシギ 相模川河口



1

キリアイ 相模川河口



2

タカブシギ 酒匂川河口



3

キアシシギ 鎌倉市深沢



1

オグロシギ 相模川河口



2

オオソリハシシギ 相模川河口



3

チュウシャクシギ 三浦半島笠島



1

アオバズク 横浜市南区日野



2

ヒメアマツバメ 小田原市



3

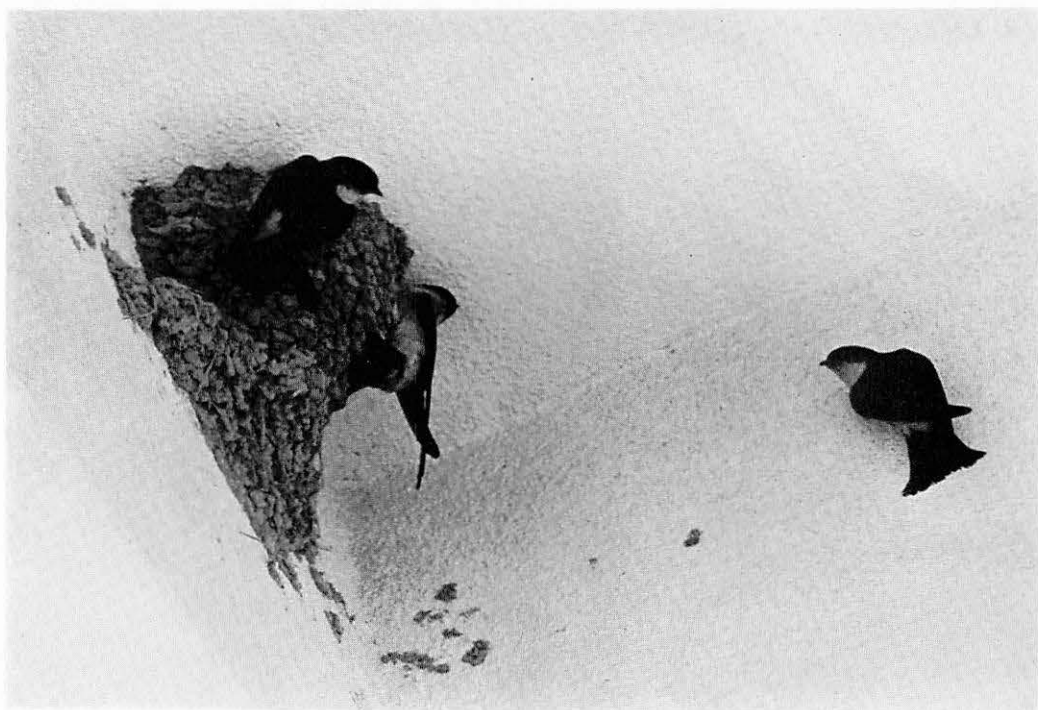
ブッポウソウ 清川村別所



1 オオアカゲラ 丹沢・塔ヶ岳



2 コゲラ 箱根・湖尻



3 イワツバメ 足柄上郡開成町



1

コルリ 丹沢・塔ヶ岳



2

アカハラ 丹沢・丹沢山



1

エゾビタキ 相模川河口



2

ヒガラ 箱根・湖尻



3

ホオアカ 鎌倉市深沢



1

クロジ 鎌倉市佐助稲荷



2

ハギマシコ 丹沢・塔ヶ岳



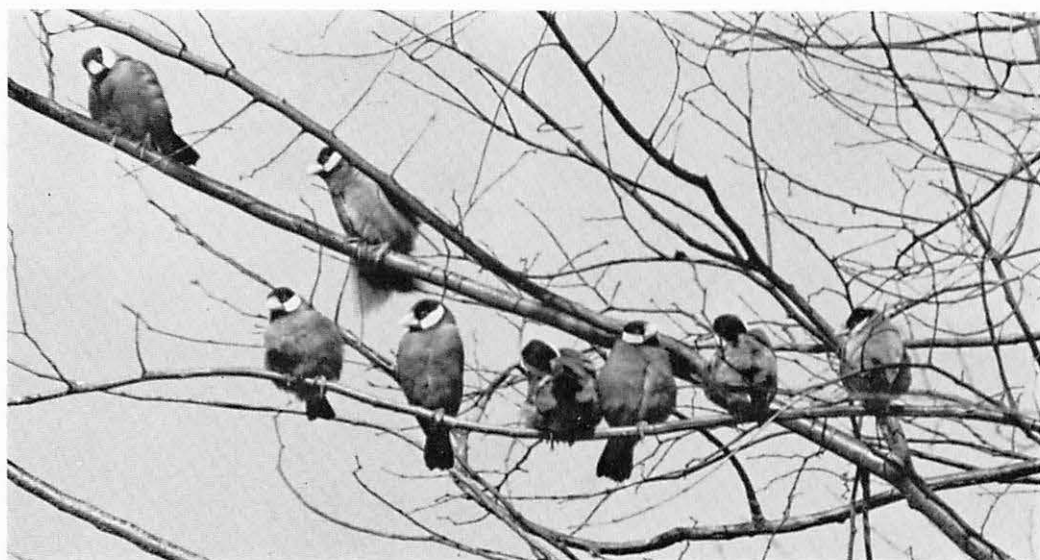
3

ウソ 箱根・湖尻



1

ベニスズメ 酒匂川河口



2

ブンチョウ 横浜市戸塚区俣野町



3

ホシガラス 相模湖町景信山 (大場達之氏撮影)

昭和49年3月25日印刷

昭和49年3月31日発行

神奈川県鳥類誌 2

編集兼発行者

神奈川県立博物館

横浜市中区南仲通5の60

土屋武人

印刷所(株)中川印刷